

(案)

第2次酒田市子ども読書活動推進計画

～ 読書コミュニケーションを広げよう! ～



平成 28 年 月

酒田市教育委員会

はじめに～教育長

目 次

第1章	第2次酒田市子ども読書活動推進計画の策定にあたって	1
1	計画策定の目的	1
2	子どもの読書に関する国及び県の方針	1
3	計画の位置付け	2
4	計画の対象	2
5	計画期間	2
第2章	酒田市子ども読書活動推進計画の成果と今後の課題 (アンケート調査から)	3
1	重点施策ごとの評価	4
2	アンケート結果による評価	5
3	今後の課題	9
第3章	第2次酒田市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方	
1	基本方針	10
2	数値目標	10
3	新重点施策(家読(うちどく)と読書手帳)	11
図	新重点施策【連携図】	13
図	第2次酒田市子ども読書活動推進計画【体系図】	14
第4章	第2次酒田市子ども読書活動推進計画の取り組みについて	15
1	家庭における子どもの読書活動の推進 ・家庭での取り組み ・市の取り組み	15
2	保育園(認可・無認可)・幼稚園・認定こども園における子どもの 読書活動の推進 ・園での取り組み ・市の取り組み	18
3	学校における子どもの読書活動の推進 ・学校での取り組み ・市の取り組み	20
4	地域における子どもの読書活動の推進 ・市の取り組み ・地域での取り組み	23
5	計画推進のために	25
資料		
	アンケート結果	26

第1章 第2次酒田市子ども読書活動推進計画の策定にあたって

1 計画策定の目的

子どもたちを取り巻く生活環境の変化は、子どもたちの成長に大きな影響を与えています。近年、インターネットやスマートフォン・携帯電話など多様な情報メディアの進化・普及に伴い、子どもたちの生活時間に占めるそれらの接触時間が増加し、電子メディアを介した事件の発生などさまざまな問題が顕在化する一方、子どもたちの「読書離れ」や「活字離れ」が指摘されています。

平成26年度に実施された「第60回学校読書調査」（全国学校図書館協議会と毎日新聞社の共同調査）によると平成26年5月における1か月間で読んだ本（教科書、参考書、マンガ、雑誌等を除く）の平均冊数は、小学生が11.4冊、中学生は3.9冊、高校生が1.6冊という結果になっています。小学生は高い数値を示しており、これは「朝読書」などのさまざまな読書活動推進の取り組みによって、子どもたちが本に触れる機会が増えたことの効果が上がっているものと考えられます。しかし、一方で、よく読まれた本は、映像化されたものや、シリーズものに偏る傾向が見られ、全国学校図書館協議会は、「今後は平均読書冊数の数値に一喜一憂するものではなく、読書指導にいっそう力を入れる必要がある」とまとめています。

読書活動は「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにする」など、子どもにとって計り知れない価値があることを認識し、一人ひとりの子どもが自主的に読書に親しみ、読書習慣を身につけることができる環境づくりを目指して、平成23年2月に「酒田市子ども読書推進計画」を策定し、ブックスタート事業により、幼児期からの読書習慣を身につけることをはじめとした各種の事業を推進して来ております。

今回の第2次計画では、これまでの取り組みの成果と課題を検証し、一定の成果が認められたこれまでの計画を継承しながら、新たに今後取り組むべき施策を加えて計画の策定を行います。

2 子どもの読書に関する国及び県の方針

(1) 国の動向

国では、読書の持つ計り知れない価値を認識して、子どもの読書活動を支援するため、平成12年を「子ども読書年」と定め、平成13年12月には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されました。平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を閣議決定し、平成20年3月に「同第二次計画」、平成25年5月には「同第三次計画」が策定され、おおむね5年間にわたる施策の基本的方針と具体的な方策を明らかにしております。

一方、平成17年に「文字・活字文化振興法」が制定され、これを踏まえる形で、平成18年に「教育基本法」が、平成19年6月に「学校教育法」が改正され、「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」が〈義務教育として行われる普通教育〉の目標の一つとして定められています。

その後、平成20年3月に告示された「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」においては、教育内容の主な改善事項の第一に「言語活動の充実」を掲げており、

国語科において読み書きなどの基本的な力を定着させた上で、各教科などにおいて記録、説明、論述、討論などの学習活動を充実させるとともに、指導計画の作成などにあたって配慮すべき事項として「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」としています。

また、平成20年6月に「社会教育法」「図書館法」「博物館法」が改正され、社会教育における学習機会を利用して行った学習成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会の提供などが位置付けられ、さらには平成20年を「国民読書年」とする「国民読書年に関する決議」が国会で採決されています。

(2) 県の動向

山形県教育委員会においては、平成16年3月に策定した「第5次山形県教育振興計画」において「本が好きな子どもを育てる」として子どもの読書活動の推進に取り組み、平成18年2月に「山形県子ども読書活動推進計画」を策定しました。平成23年からスタートした「第5次山形県教育振興計画後期プラン」を推進するため、同年12月には「山形県子ども読書活動推進計画（第2次）」が策定されており、その基本方針としては、下記の3点が掲げられています。

- 1 家庭・地域・学校を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進
- 2 子どもが読書に親しむ機会の提供と施設、設備その他諸条件の整備充実
- 3 子どもの読書活動に対する理解啓発・情報の発信

3 計画の位置付け

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条の規定に基づいて策定された国の基本的な計画と山形県の推進計画を基本とし、本市の総合計画、教育振興基本計画（後期計画）及び他の関連する計画との整合性のもとに、市全体の連携を図りながら、「子どもの読書活動」を推進する計画として策定します。

4 計画の対象

この計画の対象は、主に0歳からおおむね18歳までの子どもとします。

なお、この計画における施策や具体的な取り組みについては、乳幼児から15歳までを重点的な対象としています。それは、この年齢の子どもに対する取り組みを特に十分に行い、読書に関する習慣を継続させることにより、年齢層が上がってもよい習慣を続けることができると考えるためです。

子どもの読書環境の整備には、子どものみならずその保護者、保育園・幼稚園等の保育士、学校の教職員など、日々子どもに接する大人のかかわりが非常に重要であることから、取り組みの主体は、大人を含む全ての市民としています。

5 計画の期間

平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

第2章 酒田市子ども読書活動推進計画の成果と今後の課題

(アンケート調査から)

「酒田市子ども読書活動推進計画」では

「子どもたちの身近に本があること」

「子どもたちの身近に本に親しむ場所があること」

「子どもたちの身近にいる大人たちが子どもと本をつなぐこと」

を基本方針として、家庭、保育園・幼稚園、学校、図書館等が連携し、子どもが読書に親しむ機会の増加と環境づくりに取り組んできました。

まず、家庭における読書活動の推進を図るために、ブックスタート事業を導入し、その結果、「乳児への読み聞かせをよくする」という保護者が増加しました。また、おはなし会や家庭読み聞かせ講座等を開催し、子どもたちが本に親しむ機会を創出しました。

次に、保育園・幼稚園・学校における読書活動の推進を図るために、市立図書館の本を団体貸出したり、おすすめ本や貸出ランキングを紹介するなど情報提供を行いました。

地域における読書活動推進のためには、読み聞かせボランティア養成講座や、絵本作家の講演会を開催し、読書活動に対する啓発を行いました。また、絵本・児童図書・一般図書の充実及び各分館への配本、コミュニティセンターへの貸出文庫を実施し、身近に本がある環境づくりに取り組みました。

新たな計画を策定するにあたり、これまでの酒田市子ども読書推進計画における取り組みの成果を検証するために、平成27年5月に、市内の小学校2年生・5年生の児童及び中学2年生の児童・生徒、それらの保護者にアンケートを実施しました。

(前は平成21年11月に該当学年の全員にアンケートしましたが、今回は市内の小・中学校すべての学校を対象としながらも、当該学年に複数の学級のある場合は各学校1クラスのみ抽出しています)

その結果によれば、1か月あたりの平均読書冊数については小学校2年生が21.5冊、小学校5年生が14.3冊、中学2年生になると4.5冊と、平成22年と比較して、いずれの学年においても数値が増加し、また不読率も減少しています。

これは、学校における朝読書の習慣が子どもたちに浸透していることが大きな要因のひとつと考えられます。

また、ブックスタート事業においては、9か月健診時にアンケートを実施していますが、その結果から乳幼児への読み聞かせをする保護者の割合が増加し、「子どもとふれあう時間が増えた」「以前より絵本に興味を持つようになった」という回答が半数近くにのぼり、「今後もブックスタート事業を継続してほしい」という回答が90%以上と、大きな効果が出ています。

1. 重点施策ごとの評価

●ブックスタート事業の導入

目標指標：乳児への読み聞かせをよくする保護者の割合

【目標】 80%

【実績】 平成22年度57.2% → 平成26年度88.3%→平成27年度94.5%
(ブックスタートアンケートより)

- 乳児健診時（3ヶ月児検診）に読み聞かせボランティアによる読み聞かせ体験と、絵本2冊を配本し、受け取った方の約65%の方がその絵本を活用しており、半数以上の方が、子どもとふれあう時間になると回答しています。
- 読み聞かせボランティア講座を基礎編とステップアップ編の2部構成で開催し、小学校や各施設等での読み聞かせに活用されました。
- 赤ちゃんの読み聞かせ教室を年12回開催し、読み聞かせに関心を持った方の学習の場となり、児童図書室の活用増など家庭での読み聞かせの増加につながっています。
- お話を月2回、年間23回開催し、平成26年度は延577人の親子が参加しました。幼児期からの本に親しむきっかけとなり、児童図書室の利用促進にも繋がっています。
- 絵本や児童書などを充実させ、おすすめ本の展示やブックリストの作成・提供を行い、団体貸出の利用促進を図っています。
- 絵本づくり講座を開催し、家族ぐるみの読書活動を推進しました。

●読書の意義と重要性の広報

目標指標：家で1か月にまったく本を読まない児童生徒の割合

【目標】 小学生0%、中学生5.0%

【実績】 平成21年度 小学生1.6%、中学生9.6%
→平成27年度 小学生0.7%、中学生5.8%
(読書アンケートより)

- 小・中学校においては、朝読書の時間を設け、また、学校図書館の利用を推進するなど、読書習慣の向上を図りました。
- 絵本や児童書などを充実させ、おすすめ本の展示やブックリストの作成・提供を行い、団体貸出の利用促進を図りました。(再掲)
- こどもの読書習慣に児童書・絵本作家サイン色紙等を展示したり、絵本作家を講師に迎え講演会による読書活動の推進を図りました。

●魅力ある学校図書館づくり

目標指標：学校図書館の児童生徒一人当たり貸出冊数

【目標】 小学生 7.5冊/月、中学生 1.5冊/月

【実績】 平成20年度 小学生6.6冊/月、中学生0.6冊/月
→平成26年度 小学生8.8冊/月、中学生0.63冊/月

- 希望校に対して、講師派遣等の支援を行いました。
- 図書館だよりや学級だよりを活用した保護者への広報活動やPTAによる読み聞かせを行いました。

●学校と市立図書館の連携強化

目標指数：図書館の学校への団体貸出の年間貸出冊数

【目標】 3,000冊

【実績】 平成21年度 2,510冊 →平成26年度2,069冊

- 絵本や児童書、一般図書を充実させ、おすすめ本の展示やブックリストの作成・提供を行い、団体貸出の利用促進を図っています。(再掲)
- 市立図書館見学を行って利用方法を学び、図書館の本を利用して調べ学習を実践しました。
- 読書感想文向けの課題図書・指定図書や工作・自由研究向けの参考図書を特別コーナーに設置して、利用促進を図りました。夏休みには多くの利用に繋がっています。
- 実績減は、学校図書館の蔵書の充実強化があったこと、児童・生徒数の減少、それに伴う学校の統廃合による学校数の減少が主因と考えられます。
(1校あたり：平成21年度(40校) 62.8冊/校、平成26年度(34校) 60.9冊/校)

●ボランティアの養成

目標指数：読み聞かせボランティア講座受講者数

【目標】 200名

【実績】 平成22年度 125名→平成26年度 65名

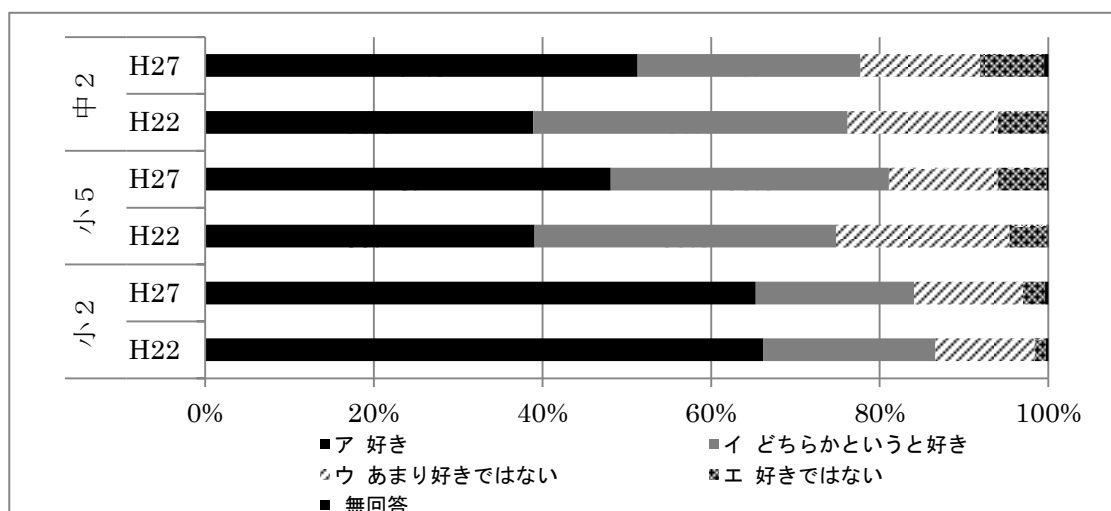
- 読み聞かせボランティア講座を基礎編とステップアップ編の2部構成で開催し、小学校や各施設等での読み聞かせに活用されました。(再掲)

2. アンケート結果による評価

(1) あなたは本を読むのが好きですか？

本を読むことが「好き」「どちらかというとき好き」は、小学5年生では81% (H22は75%)、中学2年生では78% (H22は76%) と前回調査時より割合が高くなっています。学校における朝読書習慣等による読書の楽しみが定着・浸透していると考えられます。一方、小学2年生では84% (H22は86%) と僅かに減少しています。

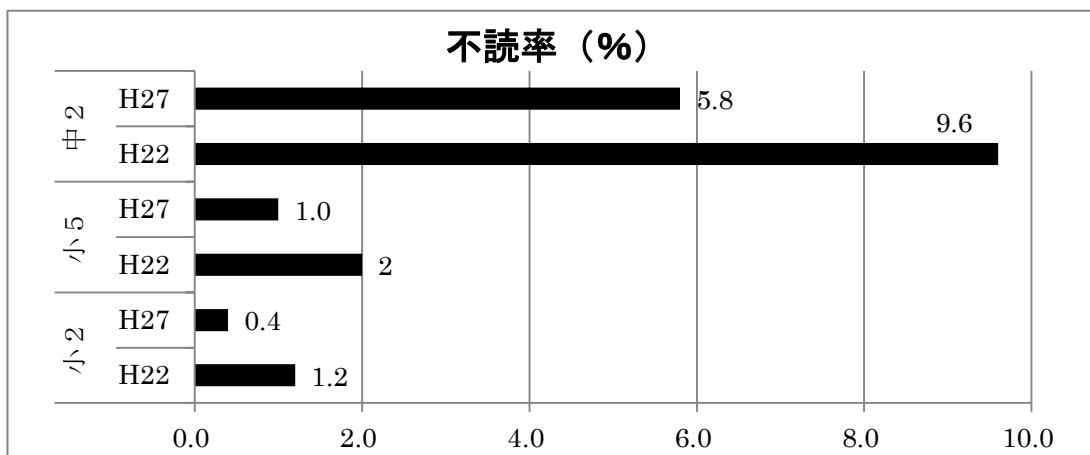
図表 あなたは本を読むのが好きですか？ (児童：問①)



(2) まったく本を読まない人の割合

1か月あたりにまったく本を読まないの児童・生徒の割合は、前回と比較して減少していますが、小学校高学年から中学生にかけて増加する傾向は続いています。

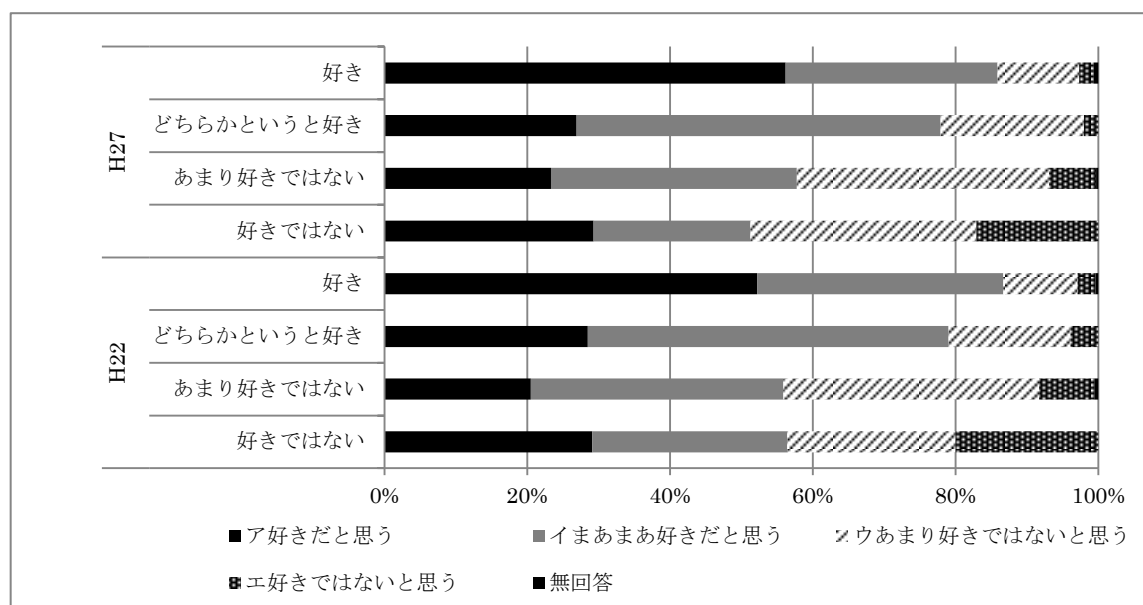
図表 まったく本を読まない人の割合（児童：問④より）



(3) 親の読書好き嫌いと子どもの読書好き嫌いの関係

子どもの読書好き嫌いと保護者の読書好き嫌いとの関係を見ると、前回とほぼ同様で、「親が読書好きの子どもは、読書好き」との傾向が出ています。

図表 親の読書の好き嫌いと子どもの読書好き嫌い（保護者：問①②より）



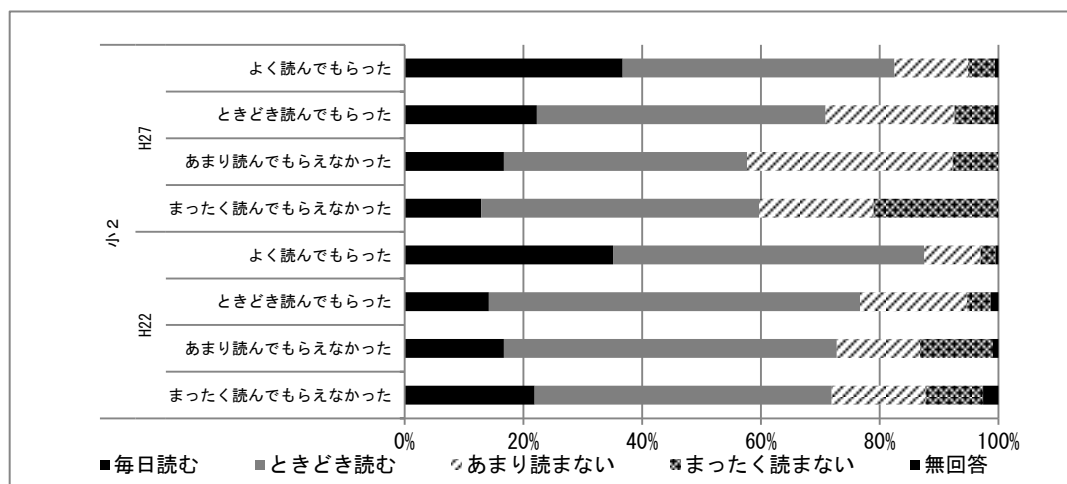
(4) 読み聞かせと子どもの読書好き嫌いの関係

幼い時に読み聞かせを「よく読んでもらった」「ときどき読んでもらった」子どもは、本を「毎日読む」「ときどき読む」の割合が高くなっています。

特に、本を「毎日読む」子どもは、親に「よく読んでもらった」「ときどき読んでもらった」子どもが小学2年生では59%で、小学5年生29%、中学2年生35%と高いことがわかりました。

低学年ほど、家庭での読書活動が本人の読書活動に影響すると推察されます。

図表 家族からの読み聞かせと児童生徒の読書が好きかとの関係 (小2)

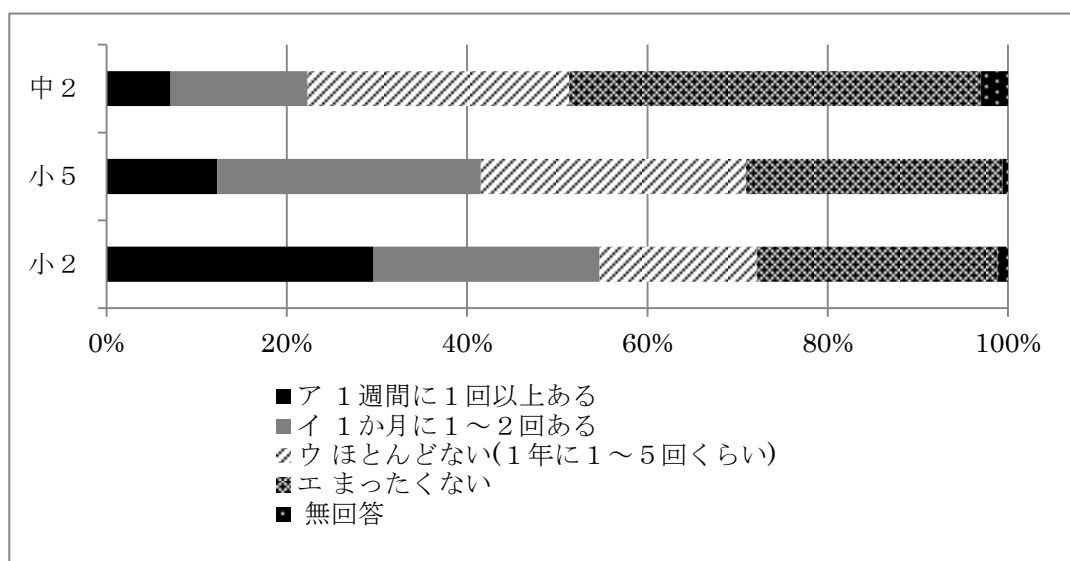


(5) 本に関係のあることで家族とお話することがありますか

今回のアンケートで、新たに、「家族間で読んだ本等について話をするか」質問したところ、小学2年生では「1週間に1~2回/1か月に1~2回」ある子どもの割合が約55%、小学5年生では約40%、中学2年生では約22%あるという結果になっています。

低学年ほど読書について家族間のコミュニケーションを取っているものの、高学年になるにつれて、その割合が減少する傾向にあります。

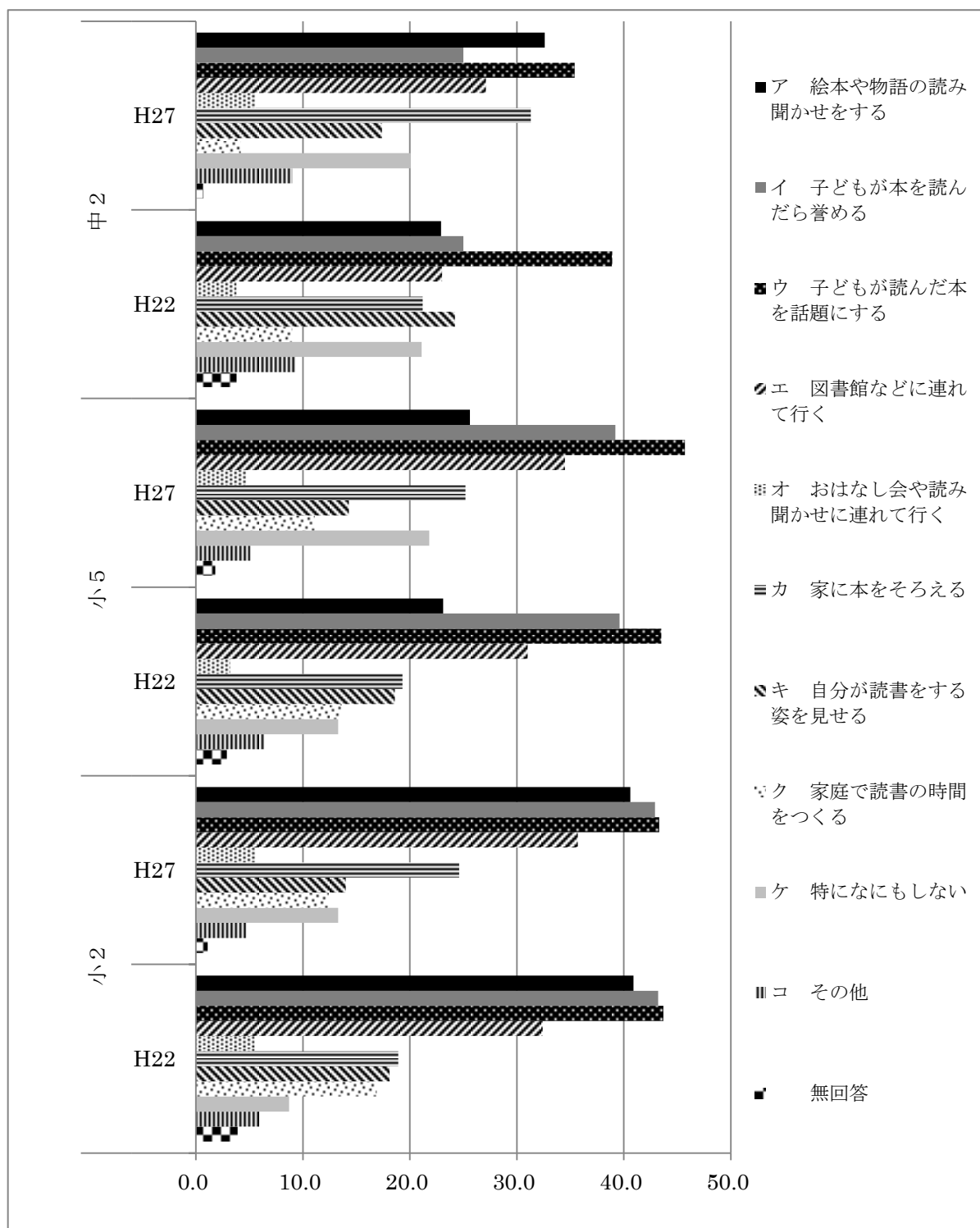
図表 本に関係のあることで家族とお話することがありますか (児童⑧)



(6) 読書について家庭でどのようなことに気を配っているか

家庭での気遣いについては「子どもが読んだ本を話題にする」が最も高く、次に「子どもが本を読んだら褒める」が続いています。読み聞かせを「あまりしなかった」「まったくしなかった」方の理由で、「時間がないから」との回答が高かったのですが、読み聞かせはできなくても、本を話題にしたり、褒めたりすることで、コミュニケーションを図ろうとしている様子がうかがえます。

図表 読書についてどのようなことに気を配っていますか。(保護者⑦)



【今後の課題】

1. ブックスタート事業導入により、乳児への読み聞かせをよくするという保護者の割合は目標を達成していますが、読書活動に対する意識を保ち、さらに向上を図るため、今後も継続して事業を実施し、更なる掘り出しを図るための（例えばマタニティの頃から読み聞かせの必要性を広報するなど）事業を展開していく必要があります。
2. 幼少期からの読書活動を推進するためには、家庭での読書活動が重要と考えられます。そのため、家庭内で読書について話題にしてコミュニケーションを図り、家族で読書習慣を共有できることが必要です。
3. どんな本を読んできたのか、どんな本を読んでいるのか、どんな感想を持ったのかを、一目でわかるようにすることで、家庭内で「子どもが本を読んだら褒める」ことができるよう支援を行う必要があります。
4. 「子どもたちの身近に本があり」、「本に親しむ場所があり」、「身近にいる大人たちが子どもと本をつなぐこと」ができるように、ブックスタートから始まり、保育園や学校などと連携して、切れ目なく支援をしていくことで、子どもたちの自主的な読書活動が継続されるよう推進していくことが重要です。
5. 継続した読書習慣の醸成には、子どもたちが「読書の喜び」を感じるようになることが必要であり、このためには学校のみならず家庭、保護者等も含めた取り組みが今後も必要です。

第3章 第2次酒田市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

1 基本方針

幼少期に身に付けた読書習慣を生涯にわたり継続できるよう支援する

- 1 子どもたちの身近に本があること
- 2 子どもたちの身近に本に親しむ場所があること
- 3 子どもたちの身近にいる大人たちが、子どもと本をつなぐこと

2 数値目標

	重点施策	目標指標	21年度	26年度	目標(1次) (27年度)	目標(2次) (32年度)
1	ブックスタート事業の導入	乳児への読み聞かせをよくする保護者の割合	57.20% (22年度)	94.50% (27年度)	80%	96%
2	読み聞かせ習慣の継続	赤ちゃんの読み聞かせ教室参加者		99組		100組
3	読書の意義と重要性の広報	1か月にまったく本を読まない児童生徒の割合	小学生 1.6% 中学生 9.6%	小学生 0.7% 中学生 5.8% (27年度)	小学生 0.0% 中学生 5.0%	小学生 0.0% 中学生 3.0%
4	魅力ある学校図書館づくり	学校図書館の児童生徒一人当たり貸出冊数	小学生 6.6冊/月 中学生 0.6冊/月 (20年度)	小学生 9.2冊/月 中学生 0.7冊/月	小学生 7.5冊/月 中学生 1.5冊/月	小学生 10.0冊/月 中学生 2.0冊/月
5	読書活動の推進	児童・生徒一人当たりの貸出冊数	10.7冊	11.9冊	12.1冊	12.7冊
6	家読の推進	家族間で本に関することを話題にする児童・生徒の割合		小学生 49.4% 中学生 31.9%		小学生 70% 中学生 50%

3 新重点施策

(1) 「読書手帳」を活用しよう

◇「読書手帳」(どくしょてちょう)とは？

読んだ本を記録して残すためのノートで、心に思い出を残していく取り組みです。酒田市で作成し、市内全幼稚園・保育園、小・中学校に配付します。

※ 読んだ本、著者名などの他、感想(短評やコメント)を書く欄も設けます。

赤ちゃんの時は、家族が読み聞かせをした本とその時の子どもの様子を記入してもよいでしょう。幼少期は、家族の人に伝えて書いてもらってもよいでしょう。自分で書けるようになったら、本の内容や感想、その時思ったことを自由に書くことができます。そうすることで、読んだ本や読んであげた時の記憶が心に留まることでしょう。

◇読書手帳の期待される効果

① 自分の読書活動の振り返りとこれからの読書計画に役立つ

読んだ本の履歴を目に見える形で残すことによって自らの読書活動の振り返りをすることができます。

また、読む本を選ぶときに以前読んだ本が参考になります。

② 読書コミュニケーションが広がる

手帳を友達同士で見せ合い、「この本が面白いよ」といったコミュニケーションを楽しむことができます。同じ本を読んでいた場合は感想を言い合うといったことが行われるでしょう。

家族でも、読書手帳を活用して、本の内容に関することを話題にしたり、本のテーマで会話をするきっかけになることが期待されます。このように読書手帳を活用することで、読書コミュニケーションが促進されます。

③ 幼稚園・保育園、小・中学校での利活用

幼稚園・保育園では乳幼児版の読書手帳(読書カード)を貸出しカード替わりに使用して、返却時に次に借りたい本の参考にすることが可能です。園児をほめたり、本を話題にした声掛けにも使えます。

小・中学校では、読書に挑戦する児童・生徒を先生が励ましたりすることによって、一層読書意欲が高まります。また、児童・生徒の達成感にも繋がることを期待できます。

(2) 「家読(うちどく)」をはじめましょう

◇家読(うちどく)とは？

「家読(うちどく)」とは、家族一緒に読書などを楽しむ時間を過ごすことや、読書をきっかけにより、そこから広がるコミュニケーションを大切にしようという活動です。

読書をきっかけに、家族のコミュニケーションを豊かにし、相互理解を深め、家族の絆がいつそう深まることを目指した取り組みです。

「家読(うちどく)」に取り組むことで、子どもが本に出会い、本に親しみ、読書に対する興味や関心が高まっていくことが期待されます。

※ 学校では「朝読」が行われています。酒田市ではすべての小中学校で実施

しています。各家庭で読んだ本に限らず、学校等で読んだ本を話題にしても良いでしょう。

◇家読のやり方は？

子どもの年齢や各家庭の実情に合わせ、各家庭でいろいろなやり方を工夫していただくために、特にこうしなければならないという決まり事は設けません。

家族一緒に読書を楽しむ時間を過ごし、そこから広がるコミュニケーションを大切にしようという活動です。家族同士のコミュニケーションで家庭が家族の心地よい居場所になります。

(例)

- ・子どもが一人で読んでいるときに、そばで家族が寄り添う。または、子どもが家族に読み聞かせをする。
- ・一人読みができるようになっても家族が読み聞かせをする。
- ・読んだ本や読み聞かせしてもらった本についての内容について会話をする。
- ・本のテーマにかかわる話をする。
- ・料理本、折り紙本を読み、実際に作ってみる。
- ・家族で出かけた帰りに図書館に寄る。

◇家読（うちどく）の日の推奨

- ・例として毎月19日を「家読(うちどく)推進の日」として推奨します。
- ・家族で読書に関するコミュニケーションの時間を取れるように、パソコン、携帯電話、テレビ、ゲーム等の使用を減らす「メディアダイエットの日」も合わせて提案します。

新重点施策【連携図】

読書手帳で広がる読書コミュニケーション！

酒田市オリジナルの読書手帳を作成し、中学生までの子どもたちに配付します。

★読んだ本の書名、著者名などの他、本人の短評も書き込めます。

★本人の記録とするだけでなく、家族や友だちとの会話や家読(うちどく)に活用することにより、読書コミュニケーションを広げることができます。

家読(うちどく)で家族ふれあい！

家読(うちどく)とは「家庭読書・家族読書」の略語で「家族ふれあい読書」のことです。

★例として毎月19日を「家読(うちどく)の日」として推奨します。

★合わせて「メディアダイエットの日(パソコン、携帯電話、テレビ、ゲームの使用を減らす日)」とすることを提案します。

【体系図】 各部門の連携と協力で家読の推進をめざします

(1) 家庭における取り組み

- ・読み聞かせをする。逆に子どもが家族に読み聞かせをする。
- ・家族で同じ本を回し読みする。
- ・読書手帳を見ながら、読んだ本や読み聞かせしてもらった本について会話をする。
- ・本のテーマにかかわる話をする。
- ・料理本、折り紙本を読み、実際に作ってみる。
- ・家族で出かけた帰りに図書館に寄る。

(2) 保育園・幼稚園・認定こども園における取り組み

- ・読書手帳の利用で貸出の簡素化
- ・読書手帳を見ながら次の絵本の紹介
- ・保育園・幼稚園での貸出ランキングや新着絵本のリストを作成・配付する。
- ・家読(うちどく)だよりを発行する。
(実施した保護者の声、写真など)
- ・保護者を含めた園行事の中で、読み聞かせをする機会を増やす。
- ・保護者会、懇談会等で、読み聞かせの大切さを具体的に伝える。

連携・協力

(4) 市・図書館・地域における取り組み

- ◆市
 - ・毎月19日(例)を「家読(うちどく)推進の日」として推奨する。
 - ・市ホームページ、市広報に「家読(うちどく)おすすめ本」をのせる。
- ◆図書館
 - ・読書手帳を作成・配付する。
 - ・各部門毎の「家読(うちどく)おすすめ本リスト」を作る。
 - ・家読(うちどく)おすすめ本の展示を行う。
 - ・「家読(うちどく)を始めましょう」チラシを作成する
- ◆地域
 - ・コミュニティセンター図書コーナーに「家読(うちどく)おすすめ本リスト」を置く。

(3) 学校における取り組み

- ・読書手帳を利用して、本コミュニケーションを広げる。
- ・読書手帳を利用して貸出ランキングや新着本の紹介をする。
- ・図書室に「家読(うちどく)おすすめ本コーナー」を設ける。
- ・児童自身が紹介したい本を展示する。
- ・19日(例)を「メディアダイエットの日」とし、家読(うちどく)を推奨する。

第2次酒田市子ども読書活動推進計画【体系図】



第4章 第2次酒田市子ども読書活動推進計画の取り組みについて

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

【 施 策 】

■家庭での取り組み

1 読み聞かせの実践

赤ちゃんの時から絵本の読み聞かせを実践することにより、気負わず絵本を介して子どもと楽しい時間を過ごす気持ちで、保護者も楽しむことが大切です。

2 「読書手帳」の活用 【新規】

読書手帳は読んだ本を記録し残すためのノートで、心に思い出を残していく取り組みです。本を読んで思ったことを文字にすることにより、そのときに感じた気持ちや心に残ったことが整理でき、記憶が定着し、読書がより深く感じられることで、子どもたちの感性や創造力を高め、より読書の質を高める効果が期待されます。そして、読解力、集中力といった学力にもよい影響を与えてくれるでしょう。

この読書手帳を家族で活用し、本の内容に関することを話題にしたり、本のテーマで会話をするきっかけになり、読書コミュニケーションが促進されることは家読（うちどく）の推進にもつながるでしょう。

3 「家読(うちどく)」の推進 【新規】

読書は、子どもが、ことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

子どもの読書習慣は日常の生活を通して形成されます。読書が生活の中に位置付けられ、継続して行われるよう、家庭での読書活動の習慣化に向けて積極的に取り組むことが大切です。家庭で、子どもが本に出会い、本に親しむきっかけをつくったり、読書に対する興味や関心を高めたりできるように、「家読(うちどく)」に取り組んでみましょう。家読(うちどく)とは家庭読書の略語で「家族ふれあい読書」を意味しています。

家読(うちどく)のやり方は家族一緒に読書を楽しむ時間を過ごし、そこから広がるコミュニケーションを大切にしようという活動です。本をコミュニケーションツールとして相互理解を深めることで、家族の絆がいつそう深まることが期待できます。

4 身近に本がある環境づくり

いつでも子どもの目に触れ、子どもの手に届くところに本を置くなどして、家庭の中に本が身近にある環境を整えることにより、読書の機会が増え、読書の習慣を続けることが期待できます。図書館や保育園等の貸出も積極的に活用することに結びつくことが期待されます。

■市の取り組み

1 ブックスタート事業

●ブックスタート事業（継続・拡充）

<目的> 絵本をとおした親子の触れ合いのきっかけを作ります。

<内容> ・読み聞かせボランティアによる乳児への初めての読書体験
・絵本2冊、子育て支援、図書館情報配布。読み聞かせ、わらべ歌体験等。
・おすすめ本の展示、紹介
・子どもの図書館利用カード、乳幼児版の読書手帳、おすすめ本リストの配布（拡充）

●ブックスタート読み聞かせボランティアの養成（継続）

<目的> ブックスタート読み聞かせボランティアのフォローアップ、及び新たなボランティアの養成を図ります。

<内容> ・読み聞かせボランティア養成講座による、ブックスタートの知識、読み聞かせの方法を習得することや、より良い読み聞かせを行うための実践方法の確認等を行うもの。

2 各家庭での読み聞かせに対する支援・広報

●家庭読み聞かせに対する支援・広報

①家庭読み聞かせの支援・広報（継続）

<目的> 家庭での読書活動の意義や重要性について保護者へ働きかけます。

<内容> ・広報・ホームページ・ハーバーラジオ・情報サイトでの広報活動
・図書館ボランティア「絵本の部屋」による「絵本だより」の発行

②読書手帳の配布【新規】

15歳以下の子ども（乳幼児、小学生、中学生）に対し、酒田市版の読書手帳を作成し、各年齢にあわせたおすすめ本のリストも配布します。

③家読（うちどく）の推進【新規】

<目的> 読書習慣を継続するために、月に1回は家族で読書をしたり、読んだ本をもとにしてコミュニケーションを図る「家読（うちどく）」を推進する。

<内容> ・「家読（うちどく）推進の日」を推奨し、チラシ作成や市広報・市ホームページ等で保護者への広報活動を行う。
・家読（うちどく）推進の日と同時に「メディアダイエットの日」の提案を行う。
・市立図書館に家読（うちどく）おすすめ本の展示を行う。
・家読（うちどく）おすすめ本リストの作成、配布や市ホームページへの掲載。

●おはなし会の開催（継続）

<目的> 子どもへの絵本等の読み聞かせにより、豊かな感性を養います。

<内容> おはなし会による読み聞かせ、紙芝居、手遊び等の実施。

●読み聞かせ講座の実施

①赤ちゃんの読み聞かせ教室の開催（継続）

<目的> 乳児への家庭での読み聞かせをするための知識を学びます。

<内容> 12か月の乳児と保護者を対象とした読み聞かせ教室の開催。

②読み聞かせの実践（継続）

<目的> 親子で読み聞かせ体験を楽しみ、絵本に親しみます。

<内容> 絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、歌遊び等の実施。（おはなしひろば、わくわく絵本、絵本の読み聞かせ会、絵本の世界）

●マタニティ教室、乳幼児健診等での読み聞かせの実施

①マタニティ教室読み聞かせの開催（継続・拡充）

<目的> 絵本の読み聞かせを通して、子どもへの語りかけや、親子の触れ合いの大切さを感じることができます。

<内容> ・出産予定の家族を対象にした絵本の読み聞かせ講座
・家読（うちどく）おすすめ本の展示、紹介

②9か月児健康相談親子ふれあい遊びの開催（継続・拡充）

<目的> 3か月児健康診査に行ったブックスタート支援事業のフォローアップを行うことにより、絵本の読み聞かせを通して、子どもへの語りかけや、親子の触れ合いの大切さを体感してもらいます。

<内容> ・親子ふれあい遊びの中での読み聞かせ体験の実施
・家読（うちどく）おすすめ本の展示、紹介

●おやこ手作り絵本づくり講座の開催（継続）

<目的> 親子で自分だけのオリジナル絵本をすることにより、絵本をきっかけとして本好きな子どもを育成し、読書活動の充実を図ります。

<内容> 創作したお話と自分の描いた絵により絵本を作成（テーマは自由）。

3 身近に本がある環境づくり（市）

●絵本・児童図書、一般図書の充実（継続）

①児童センター、子育て支援センター運営事業（継続）

<目的> 年齢に応じた絵本と保護者の子育て支援関連の本の充実を図ります。

<内容> 幼稚園、保育園、児童センター、子育て支援センター等各年齢にあった絵本や児童図書の配置および図書の購入

②市立図書館の充実とPR（継続）

<目的> 児童図書・一般図書の充実を図るとともに、読書活動が推進できるよう、図書の紹介や読書活動の取り組みに関する情報を提供します。

<内容> おすすめ本・人気の本・新刊等の選書、図書の購入、市広報、ホームページ、ハーバーラジオ、情報サイトの活用

③児童図書整備（継続）

<目的> 年齢に応じた絵本の充実を図ります。

<内容> 児童図書の選書、新刊の購入

●家庭ぐるみの読書の推進

○児童センター、子育て支援センター運営事業（継続）

<目的> 年齢に応じた絵本と保護者の子育て支援関連の本の充実を図ります。

<内容> ・家族でゆっくりと読書ができるコーナー作り。

・保育園、子育て支援センターでの貸出の実施。

（２）保育園（認可・認可外）・幼稚園・認定こども園における子どもの読書活動の推進

【 施 策 】

■園での取り組み

1 幼児が絵本や物語などに親しむ活動の推進

<目的> 言葉を聴いてイメージを描けない幼児の為に、保育士、幼稚園教諭、保育教諭による質の高い絵本や紙芝居などの日常的な読み聞かせを継続するとともに、保護者やボランティアによるおはなし会を実施し、子どもが本の楽しさにふれる機会の充実に努めます。

●保育士・幼稚園教諭・保育教諭による、子どもの情緒の安定や豊かな感性の醸成にむけ、年齢発達に即した絵本、紙芝居の読み聞かせ（継続）

- ・年齢、季節、体験などに応じた絵本の読み聞かせ
- ・クラス全体での、好きな絵本や物語の読み聞かせ
- ・園児に対する好きな絵本や物語の読み聞かせ
- ・一人読みの応援や手伝い
- ・子ども同士の読み聞かせの応援や手伝い
- ・絵本や物語に沿った遊びの導入
- ・お話作りの導入

●園蔵書の絵本を、いつでも、どこでも、子ども達が絵本を手にすることができる環境の整備（継続・充実）

- ・保育室、図書(絵本)コーナー以外の絵本環境を整備

●人材(ボランティア)の活用を充実し、読書(読み聞かせ)活動を豊かに展開（継続）

- ・様々な人から絵本を読んでもらう体験

2 子どもがたくさんの本と出会える図書(絵本)コーナーの充実

<目的> 子どもがいつでも自由にたくさんの絵本に接することができるよう、図書(絵本)コーナーの充実に努めます。また、図書館の団体貸出を活用し、発達段階に応じた絵本等の整備に努めます。

●図書（絵本）コーナーの蔵書の充実（継続）

- ・絵本棚の整備、補充、絵本の補修
- ・季節毎のおすすめ絵本の紹介
- ・子どもに人気のある絵本や新刊を購入

●園蔵書の絵本を園児への貸出（継続・拡充）

- ・園児への絵本貸出し
- ・読書手帳（幼児版）の配布・活用

●市立図書館を利用し、幅広く読書（読み聞かせ）活動を発展、展開（継続・充実）

- ・団体貸出を利用
- ・市立図書館利用への関心を高める

3 保護者への読書活動の普及と広報

- <目的> ・園の行事や「園だより」「絵本だより」「家読（うちどく）だより」などを通して、保護者に家庭での読み聞かせの大切さや意義等の広報、おすすめ絵本の紹介や地域の読み聞かせ会等の情報を提供します。
- ・保護者も子どもも身近に本と触れ合える場である園の所蔵図書を積極的に活用し、園児だけでなく保護者も利用できるように、所蔵図書を家庭へ貸出しをします。

●保護者への園蔵書本貸出の充実（継続）

- ・新しく購入した絵本の展示
- ・推薦図書や新しく購入した絵本を「園だより」「絵本だより」で紹介
- ・貸出し手順の簡素化
- ・貸出しバック持参の徹底
- ・親子・園児の貸出し人気図書の紹介

●保護者による園児への絵本・紙芝居の読み聞かせの機会の提供（継続・充実）

- ・一日保育園体験（一日保育士等）
- ・各行事（遠足・保育参観・保育参加等）

●保護者参加事業時に読み聞かせや家読の大切さの講話や図書の貸出しの促進（継続・拡充）

- ・保護者総会・保育参観等の各行事に合わせた、読み聞かせ等の研修会の開催。

●家読（うちどく）の推進【新規】

<目的> 読書習慣は幼少期から本に触れ、親しむことで身に付けることができることから、家庭における読書習慣の醸成を推進します。

<内容> 家読（うちどく）だより（おすすめ本の紹介、実施した保護者、園児の声）等の配布

●読書手帳（幼児版）の活用【新規】

＜目的＞ 家族が、読み聞かせした本やその時の子どもの様子を記入したり、子どもたちが家族に伝えて書いてもらったりすることで、親子間のコミュニケーションにも役立ち、また、子どもの興味や関心を知り、さらに広げてあげることにも役立ちます。

＜内容＞ 配布された読書手帳の幼児版（読書カード）の活用

■市の取り組み

1 園へのはたらきかけ（継続・拡充）

＜目的＞ 子どもと読書の関わりについて、園から家庭に対して広報を行うようはたらきかけます。また、所蔵図書を園児だけでなく保護者も利用できるようにし、家庭へ貸し出ししてもらおうよう園にはたらきかけます。

＜内容＞ ・「園だより」等を活用した保護者への広報のはたらきかけ（子育て支援課）

・家読（うちどく）だより（おおすすめ本の紹介、実施した保護者、園児の声）の作成、提供、発行（市立図書館）

・読書手帳（幼児版）の作成・配布

2 園の蔵書整備への支援（継続）

＜目的＞ 図書館では、大型絵本や大型紙芝居、パネルシアター等の園では整備しづらい図書を積極的に整備し、また園に対し新刊等の情報提供等を行い、団体貸出を活用した園の蔵書整備を支援し、子どもと保護者にとって、身近に必要な図書館となるよう努めます。

＜内容＞ ・絵本や児童図書の充実（市立図書館）

・園への団体貸出の利用促進（市立図書館）

3 読み聞かせの研修（継続・拡充）

＜目的＞ 園における日常的な読み聞かせを支援するため、図書館で開催する読み聞かせ等に関する研修講座に、職員の参加を積極的に呼びかけます。

＜内容＞ ・絵本の読み聞かせに関する講座の開催・活用のはたらきかけ（市立図書館）

・保護者参加事業時に読み聞かせや家読の大切さの講話など講師の派遣（市立図書館：拡充）

（3）学校における子どもの読書活動の推進

【 施 策 】

■ 学校での取り組み

1 読書習慣の定着促進に向けた取り組み

●読み聞かせ、朝読書、一斉読書会、読書週間の設定（継続）

＜目的＞ 多様な読書活動を展開し、読書好きな子どもを育てます。

＜内容＞ 読書に関する諸活動の充実と、読書推進の取り組み

●読書手帳の活用【新規】

<目的> 自分の読書活動の振り返りが可能となり、より読書の質（子どもたちの感性や創造力を高める）を高める効果が期待できます。

読んだ本の履歴を目に見える形で記録に残すことによって自らの読書活動の振り返りをすることができます。

また、新たに読む本を選ぶ時に、以前読んだ本を参考にすることができ、さらには、本を介してのコミュニケーションが広がり、家族間のみならず、友人間のコミュニケーションのツールとしても活用することにより、子どもたちの読書に対する興味・関心を高めることができます。

また、児童・生徒の感性や創造力を高め、より読書の質を高める効果が期待できます。そして、読書の習慣が定着し、読解力、集中力といった学力向上にもよい影響を与えることが期待できます。

<内容> 児童・生徒が各自手元に置いて、書名、著者名などの他、コメントを書く欄を設け、自分の読んだ本を記録します。

読んだ本は何でも何回でも自由に記入しても構わないとし、書くことを強制したり、冊数を競うものとはしないことにします。

読書に挑戦する児童・生徒を先生が励ますことによって、一層、読書意欲が高まり、児童・生徒の達成感にも繋がることが期待できます。

●家読（うちどく）の推進【新規】

<目的> 「読書はあらゆる学習活動の基盤である」ことから、学校での読書活動だけでなく、各家庭でも読書を大事にする雰囲気を作ることが重要です。

そのため、新たに取り組む「家読（うちどく）」を通じ、読書習慣の醸成を推進します。

<内容> ・「家読（うちどく）の日」及び「メディアダイエットの日」の推進。
・「家読（うちどく）だより」の配布。

2 魅力ある学校図書館づくり（継続・拡充）

<目的> 子どもの視点に立った、本を手に取りたくなる図書館環境の整備を行います。

<内容> ・図書館改装を希望する学校に対する、講師派遣等の支援
・児童生徒が紹介したい本の展示
・「家読（うちどく）おすすめ本コーナー」の設置

3 学校図書館を活用した読書指導の充実（継続）

<目的> : 読みを広げ深める授業や調べ学習などを通し、感性を磨き言葉の力の向上を図ります。

<内容> 各教科の調べ学習等における図書館のより有効な活用
図書館運営計画等の作成し計画的な図書館利用

4 読書活動が困難な子どもへの支援（継続）

<目的> 児童生徒の特性や困難さに即して、必要な支援を行います。

<内容> ・自作絵本の読み聞かせ
・大型文字本や展示本等の整備

- ・ ICT機器を活用した読書の検討

5 家庭、地域と連携した読書活動の推進（継続・拡充）

- ＜目的＞ 家庭や地域と連携しながら、本とふれあう機会を充実をはかります。
- ＜内容＞ ・ 地域やPTAとの連携による読み聞かせ活動の実施と継続
- ・ 図書館だよりや学級だよりを活用した保護者への広報活動
- ・ 「家読（うちどく）」の推奨

6 市立図書館を活用した読書指導の充実（継続）

- ＜目的＞ 児童生徒の多様な読書活動を支援し、思考力や読解力、読書力の向上を図ります。また、読書に関する興味の幅を広げ、発達段階に応じた選本につなげます。
- ＜内容＞ ・ 市立図書館見学の継続
- ・ 市立図書館提供の「おすすめ本の紹介資料」を学校へ配付
- ・ 団体貸出制度を活用した調べ学習の実施

7 「読み聞かせ講座」の利用【新規】

- ＜目的＞ 読み聞かせの方法や読書活動の大切さを周知し、読書への理解を広げる。
- ＜内容＞ 講師を派遣してもらい、研修会に利用してもらう。

■市の取り組み

1 読書環境の整備

●市立図書館の団体貸出の利用促進（継続）

- ＜目的＞ 学校と市立図書館の連携により、児童生徒の多様な読書活動を支援し、思考力や読解力、読書力の向上を図ります。
- ＜内容＞ 市立図書館提供の「学校向け団体利用パンフレット」や「おすすめ本の紹介資料」を学校へ配付

●読書手帳の作成・配布【新規】

- ＜内容＞ 作成した読書手帳について、学校より児童・生徒に配布してもらいます。あわせて、家読（うちどく）だより（おすすめ本の紹介、実施した保護者、児童・生徒の声等）の作成、提供、発行を行います（市立図書館）

2 教職員への研修

●図書専門員、図書館教育及び読書指導担当教諭を対象にした研修会の開催（継続）

- ＜目的＞ 学校図書館運営と環境整備の工夫について学び合う。図書館教育と読書指導充実に向けた知識を高め、実践につなげます。
- ＜内容＞ ・ 「図書専門員研修会」「図書館教育・読書指導研修会」の実施
- ・ 市立図書館と連携した研修講師の要請

3 「読み聞かせ講座」の拡充【新規】

- ＜目的＞ 読み聞かせの方法や読書活動の大切さを周知し、読書への理解を広げる。
- ＜内容＞ 講師を派遣し研修会に利用してもらう。

(4) 地域における子どもの読書活動の推進

【 施 策 】

■市の取り組み

1 市立図書館の利用促進

●絵本・児童図書、一般図書の充実（継続）

<目的> 児童図書、一般図書の充実を図ります。

<内容> 人気の本、おすすめ本を選書し購入。

●ブックリストの提供（継続）

<目的> 赤ちゃん向けに薦める本選びの参考にしてもらうことで、赤ちゃんの時から読書活動を推進します。

<内容> 赤ちゃん向けおすすめ本のリストを作成し、ブックスタート時に配布

●おはなし会の開催（再掲：継続）

<目的> 子どもへの絵本等の読み聞かせにより、豊かな感性を養います。

<内容> 読み聞かせ、紙芝居、手遊び等。

●家庭読み聞かせ講座（赤ちゃんの読み聞かせ教室）の実施（再掲：継続）

<目的> 乳児への家庭での読み聞かせをするための知識を学びます。

<内容> 12か月の乳児と保護者を対象とした読み聞かせ教室の実施。

●家読（うちどく）の推進（再掲）【新規】

<目的> 家庭での読書活動の意義や重要性について、保護者へ働きかけ、「家読（うちどく）推進の日」を推奨します。

<内容> ・年齢に応じた「家読（うちどく）おすすめ本リスト」の作成、配布
・家読（うちどく）おすすめ本の展示
・家読（うちどく）推進のチラシ作成、配布

●中高生向け図書・絵本等の充実

・中高校向け図書リストの作成（継続）

<目的> 中・高校生向けに薦める本選びの参考にしてもらうことで、中・高校生への読書活動を推進します。

<内容> おすすめ本のリストを作成し、市内中学校・高校に配布

●読書活動推進講演会（絵本作家講演会）の開催（継続）

<目的> 著名な絵本作家等の講演会を開催し、子どもの本についての知識を深め、家庭で読み聞かせする本や本選びの参考にしてもらうことで、家庭における読書活動を推進します。

<内容> 絵本作家等による講演会等の実施。

●読書週間等関連事業（こどもの読書週間行事）（継続）

<目的> 「こどもの読書週間」に、児童書の展示等をし、子どもたちに本と出会うきっかけづくりを推進します。

<内容> 総合文化センターモールや図書館に児童書や絵本作家サイン色紙等の展示

●特別コーナーの設置（おすすめ本等の展示）（継続・拡充）

<目的> 特別コーナーを設置し、本選びや利用しやすい本の展示に努めます。また、本を手に取りやすい場所に設置することで、興味・関心を持ってもらい、読書の推進を図ります。

<内容> ・夏休み期間中に読書感想文向けの課題図書・指定図書や工作・自由研究向け参考図書等の展示
・家読（うちどく）おすすめ本の展示(再掲)

●リサイクル図書の提供（本のリサイクル）（継続）

<目的> 不要本の無償提供し、本のリサイクルを図ります。

<内容> 不要本を展示し、無償で提供します。

2 ボランティアの養成講座（再掲）

●読み聞かせボランティア講座（基礎講座・ステップアップ講座）の開催（継続）

<目的> 読み聞かせをするための知識を学び、読み聞かせボランティアの育成及びその活動への支援を推進します。

<内容> 講義・実技の研修、お悩み事の解決相談等。

3 地域への支援

●団体貸出の実施・利用促進（継続）

<目的> 学校や保育園・幼稚園・学童保育所等の団体向けに、各団体から要望のあった図書館の本を貸出します。

<内容> ・1団体あたり120冊までの貸出。
・紙芝居・パネルシアター・大型絵本・大型紙芝居等団体向けの本の情報を提供し活用を働きかけます。
・要望のあった本の貸出し対応等（準備、レファレンス）

●コミュニティセンター、交流ひろば、学童保育所への貸出文庫の実施（継続）

<目的> 「子どもたちの身近に本がある」環境整備の一環として、図書館の本を利用しやすく提供します。
身近に本がある環境づくりを図ります。

<内容> 図書館の本をコミュニティセンター、交流ひろば、学童保育所等へ貸出しします。

■地域での取り組み

コミュニティセンター等

1 読み聞かせの実践

＜目的＞ 絵本等の読み聞かせにより豊かな感性を養います。

- ＜内容＞
- ・ボランティア(子育てグループ、有志、読み聞かせサークル)による読み聞かせの実施
 - ・子育て応援団活動での読み聞かせの実施。

2 身近で本の魅力を伝えてくれる環境づくり

本の楽しさ、魅力を伝える地域の方が身近にすることで、読書の機会が増えることが期待できます。

(5) 計画推進のために

1 関係機関の連携・協力

本計画は、子どもにかかわる家庭、保育園・幼稚園、学校、図書館他関係機関等地域全体で取り組んでいこうとするものです。

市の関係課はもとより、健康センター、子育て支援センター、保育園・幼稚園、学校、学童保育クラブ等、子どもの成長過程でかかわる機関や団体が、互いに連携を深め、子どもの読書活動に関わる情報を共有し、また、広く情報提供しながら、それぞれの取り組みを進めていきます。

2 広報啓発

子どもだけでなく、子どもの身近にいる大人にも市の広報誌やホームページ等に推進計画内容を掲載し、地域全体で子どもの読書活動の推進を図っていきます。

3 推進体制の整備・充実

子どもの読書活動の推進を図るため、推進会議を引き続き開催し、推進会議では、関係機関・団体からの情報を共有するとともに、取り組みの進捗状況を確認し必要な見直しを行うなど本計画の効果的な推進を図っていきます。

アンケート結果

児童・生徒向けアンケートの対象者数と回答者数

平成27年度 (5月)	児童・生徒			保護者			
	対象数	回答数	回答率	対象数	回答数	回答率	
	小2	500	495	99.0%	小2	500	443
小5	558	534	95.7%	小5	558	499	89.4%
中2	205	197	96.1%	中2	205	144	70.2%
計	1,263	1,226	97.1%	保護者計	1,263	1,086	86.0%

【平成27年度】

※市内のすべての学校の当該学年の児童・生徒のうち、複数学級のある学校では、1学級のみを対象。
このため、サンプル総数では、平成22年度と比較して約40%の児童・生徒が対象となっている。

平成22年度 (10月)	児童・生徒			保護者			
	対象数	回答数	回答率	対象数	回答数	回答率	
	小2	1,027	969	94.4%	小2	1,027	829
小5	1,106	1,055	95.4%	小5	1,106	874	79.0%
中2	1,100	1,051	95.5%	中2	1,100	665	60.5%
計	3,233	3,075	95.1%	保護者計	3,233	2,368	73.2%

【平成22年度】

※市内のすべての学校の当該学年の、すべての児童・生徒を対象。

(1) 児童・生徒向けアンケートの集計結果

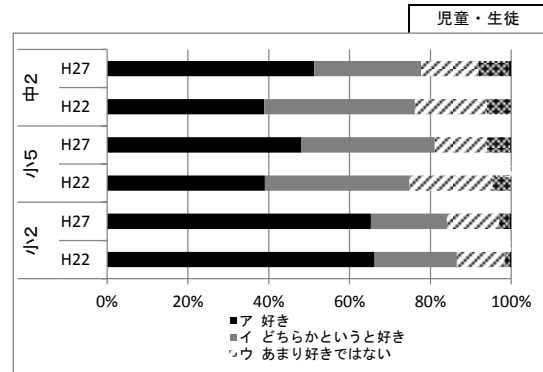
問① あなたは本を読むことが好きですか。(1つ選択)

(単位：%)

回答	学年		小2		小5		中2	
	年度		H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 好き			66.2	65.3	39.1	48.1	38.9	51.3
イ どちらかという好き			20.4	18.8	35.8	33.0	37.3	26.4
ウ あまり好きではない			11.8	12.9	20.6	12.9	17.8	14.2
エ 好きではない			1.3	2.6	4.5	5.8	5.9	7.6
無回答			0.3	0.4	0.1	0.2	0.1	0.5

※端数処理(四捨五入)の関係で合計が100%にならない場合があります。

- ・「本を読むことが好き、どちらかという好き」の回答が増加している。
(小2については、ほぼ横ばい。)

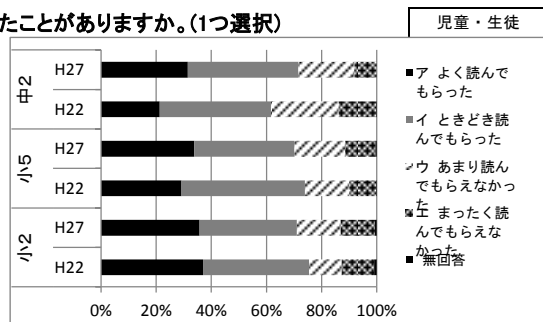


問② 小学校に入る前や小学校低学年の頃、家族から本を読んでもらったことがありますか。(1つ選択)

(単位：%)

回答	学年		小2		小5		中2	
	年度		H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア よく読んでもらった			37.0	35.8	29.2	33.9	21.3	31.5
イ ときどき読んでもらった			38.5	35.3	44.8	36.3	40.4	40.1
ウ あまり読んでもらえなかった			11.8	15.8	16.1	18.4	24.5	20.3
エ まったく読んでもらえなかった			11.8	12.5	9.7	11.0	13.6	8.1
無回答			0.9	0.6	0.2	0.4	0.2	0.0

- ・「よく読んでもらった」の回答が増加している。
(※ブックスタートを経験した年齢層は、まだ小2に達していない。)

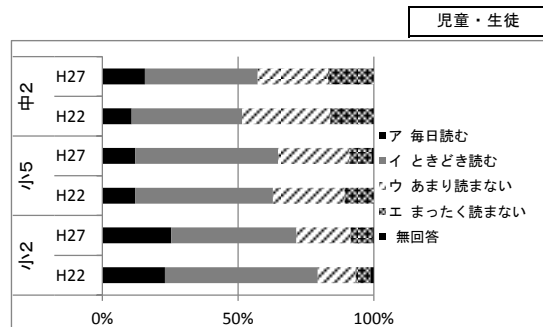


問③ 家でどのくらい本を読みますか。(1つ選択)

(単位：%)

回答	学年		小2		小5		中2	
	年度		H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 毎日読む			23.1	25.4	12.1	12.2	10.8	15.7
イ ときどき読む			56.2	46.1	50.7	52.6	40.7	41.6
ウ あまり読まない			14.0	20.0	26.4	26.2	32.5	25.9
エ まったく読まない			5.4	8.1	10.6	8.4	15.8	16.8
無回答			1.2	0.4	0.1	0.6	0.1	0.0

- ・「毎日読む」の回答は増加している。



問③-2 「あまり読まない」、「まったく読まない」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。

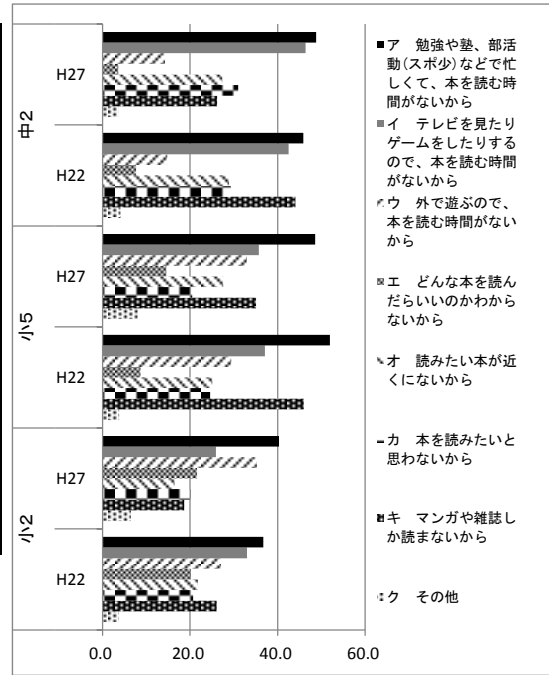
児童・生徒

(複数選択)

(単位：%)

回答	学年 年度	小2		小5		中2	
		H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 勉強や塾、部活動(スポーツ)などで忙しくて、本を読む時間がないから		36.7	40.3	51.9	48.6	45.9	48.8
イ テレビを見たりゲームをしたりするので、本を読む時間がないから		33.0	25.9	37.1	35.7	42.5	46.4
ウ 外で遊ぶので、本を読む時間がないから		27.1	35.3	29.4	33.0	14.8	14.3
エ どんな本を読んだらいいかわからないから		20.2	21.6	8.7	14.6	7.7	3.6
オ 読みたい本が近くにないから		21.8	16.5	25.1	27.6	28.9	27.4
カ 本を読みたいと思わないから		20.7	20.1	24.6	20.5	29.3	31.0
キ マンガや雑誌しか読まないから		26.1	18.7	46.0	35.1	44.1	26.2
ク その他		3.7	6.5	3.8	8.1	4.1	3.6

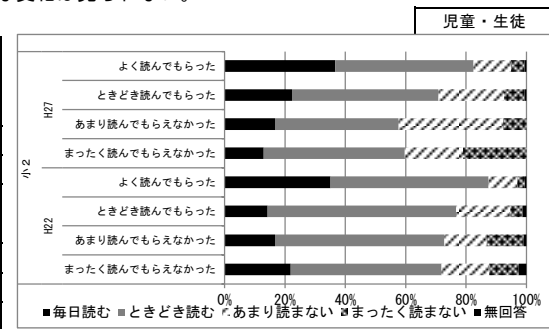
- ・「勉強や塾、スポーツなどで忙しい」が、いちばん大きな理由となっている。
- ・学年が上がるにつれて「テレビやゲーム」のため読書時間が減少する傾向が見られる。



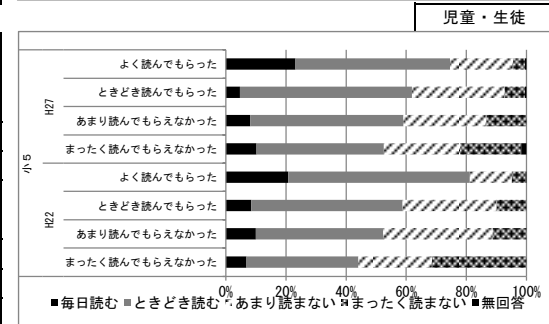
<参考> 幼い頃の読み聞かせと読書習慣との関係

- ・全般的に、幼いころに「よく読んでもらった、ときどき読んでもらった」児童・生徒は、「毎日読む、ときどき読む」という回答比率が高い。この傾向は前回と今回ではほぼ同様で、大きな変化は見られない。
- ・幼少期の読み聞かせが読書習慣に良い影響を与えている。(単位：%)

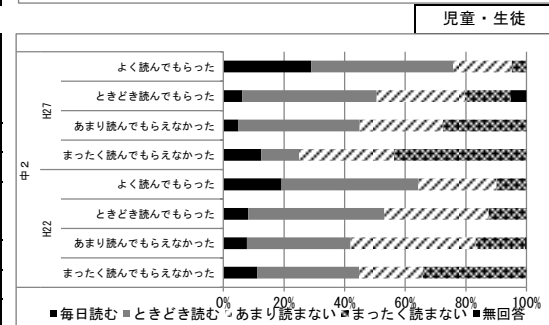
小2		ア	イ	ウ	エ	無回答
幼い頃の読み聞かせ		毎日読む	ときどき読む	あまり読まない	まったく読まない	
H27	よく読んでもらった	36.7	45.8	12.4	4.5	0.6
	ときどき読んでもらった	22.3	48.6	21.7	6.8	0.6
	あまり読んでもらえなかった	16.7	41.0	34.6	7.7	0.0
	まったく読んでもらえなかった	12.9	46.8	19.3	21.0	0.0
H22	よく読んでもらった	35.1	52.4	9.5	2.5	0.5
	ときどき読んでもらった	14.2	62.5	18.0	4.0	1.3
	あまり読んでもらえなかった	16.7	56.1	14.0	12.3	0.9
	まったく読んでもらえなかった	21.9	50.0	15.8	9.7	2.6



小5		ア	イ	ウ	エ	無回答
幼い頃の読み聞かせ		毎日読む	ときどき読む	あまり読まない	まったく読まない	
H27	よく読んでもらった	23.2	51.4	21	3.9	0.5
	ときどき読んでもらった	4.7	57.2	30.9	6.7	0.5
	あまり読んでもらえなかった	8.1	51.0	27.6	13.3	0.0
	まったく読んでもらえなかった	10.2	42.4	25.4	20.3	1.7
H22	よく読んでもらった	20.8	60.4	14	4.5	0.3
	ときどき読んでもらった	8.5	50.3	31.3	9.9	0.0
	あまり読んでもらえなかった	10	42.4	36.4	11.2	0.0
	まったく読んでもらえなかった	6.9	37.2	24.5	31.4	0.0



中2		ア	イ	ウ	エ	無回答
幼い頃の読み聞かせ		毎日読む	ときどき読む	あまり読まない	まったく読まない	
H27	よく読んでもらった	29	46.8	19.4	4.8	0.0
	ときどき読んでもらった	6.3	44.3	29.1	15.2	5.1
	あまり読んでもらえなかった	5	40.0	27.5	27.5	0.0
	まったく読んでもらえなかった	12.5	12.5	31.3	43.7	0.0
H22	よく読んでもらった	19.2	45.1	25.9	9.8	0.0
	ときどき読んでもらった	8.2	44.9	34.4	12.5	0.0
	あまり読んでもらえなかった	7.8	34.2	41.3	16.3	0.4
	まったく読んでもらえなかった	11.2	33.6	21	34.2	0.0



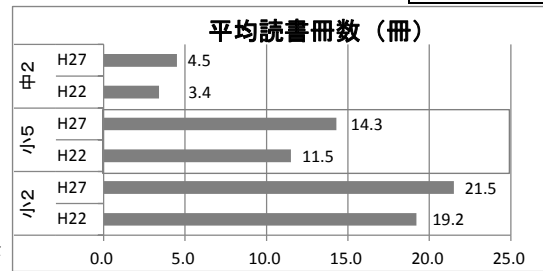
問④ 家で1か月に何冊くらい本を読みますか。

(単位:冊、%)

項目	学年 年度	小2		小5		中2	
		H22	H27	H22	H27	H22	H27
1人あたり平均読書冊数		19.2冊	21.5冊	11.5冊	14.3冊	3.4冊	4.5冊
不読率		1.2%	0.4%	2.0%	1.0%	9.6%	5.8%

※不読率とは、1か月に1冊も本を読まなかったと回答した人の割合。

- ・前回と比較して、平均読書冊数は増加、不読率は大幅に低下している。
- ・年齢が上がるにつれて、平均読書冊数が減少し不読率が増加するという傾向が見られ、特に中学生になるとその傾向が大きく見られる。



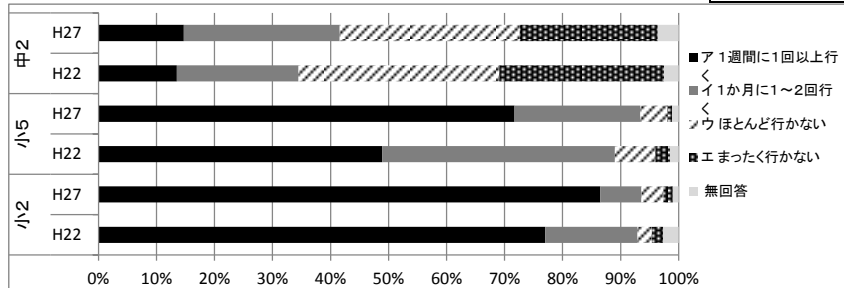
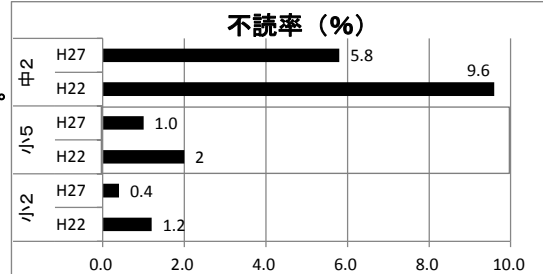
問⑤ 本を読んだり借りたりするため、学校の図書館に行きますか。(1つ選択)

(単位:冊、%)

項目	学年 年度	小2		小5		中2	
		H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 1週間に1回以上行く		77.1	86.5	48.9	71.7	13.5	14.7
イ 1か月に1~2回行く		15.9	7.1	40.1	21.7	21.0	26.9
ウ ほとんど行かない		2.5	3.8	7.0	4.7	34.6	31.0
エ まったく行かない		1.9	1.6	2.5	0.8	28.4	23.8
無回答		2.7	1.0	1.5	1.1	2.5	3.6

※「ウ ほとんど行かない」は、1年に1~5回程度。

- ・前回と比較して、図書館に行く児童・生徒の割合は増加している。(学校図書館の図書充実、利用しやすい環境の整備が進んでいることが要因。)
- ・年齢が上がるにつれて、図書館に行く割合が減少傾向にある。



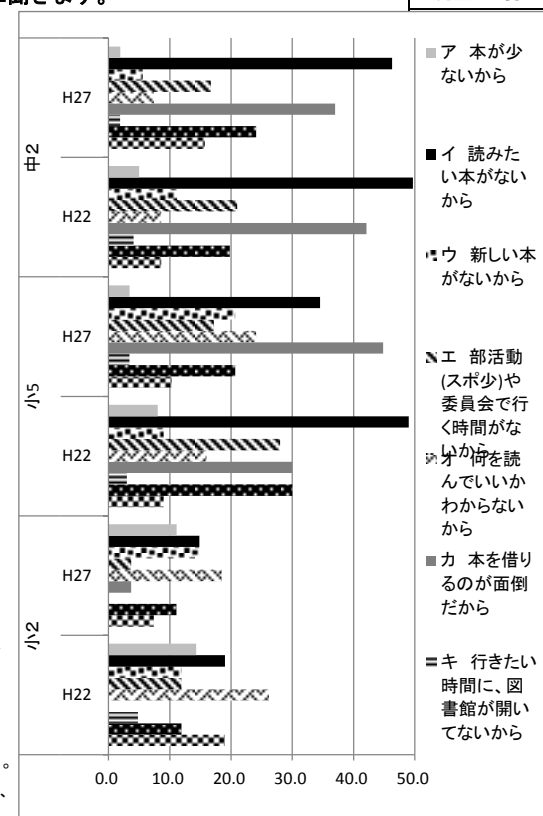
問⑤-2 「ほとんど行かない」、「まったく行かない」と答えた人に聞きます。その理由はなんですか。(複数選択)

(単位:%)

回答	学年 年度	小2		小5		中2	
		H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 本が少ないから		14.3	11.1	8.0	3.4	5.0	1.9
イ 読みたい本がないから		19.0	14.8	49.0	34.5	49.7	46.3
ウ 新しい本がないから		11.9	14.8	9.0	20.7	11.2	5.6
エ 部活動(スポ少)や委員会で行く時間がないから		11.9	3.7	28.0	17.2	21.0	16.7
オ 何を讀んでいいかわからないから		26.2	18.5	16.0	24.1	8.6	7.4
カ 本を借りるのが面倒だから		0.0	3.7	30.0	44.8	42.1	37.0
キ 行きたい時間に、図書館が開いてないから		4.8	0.0	3.0	3.4	4.1	1.9
ク 本を読みたいと思わないから		11.9	11.1	30.0	20.7	19.8	24.1
ケ その他		19.0	7.4	9.0	10.3	8.6	15.7

- ・「読みたい本がないから」「本を借りるのが面倒だから」「本を読みたいと思わない」という理由がやはり多い。
- ・「部活動や委員会で行く時間がない」という理由も多いが、前回よりはその割合が減少している。
- ・「行きたい時間に図書館が開いてない」という理由は少なく、減少傾向にある。

※学校における読書に対する対応(朝読書、学校図書館の充実、おすすめ本の提示)などが、一定の効果を生み出していることがうかがえる。

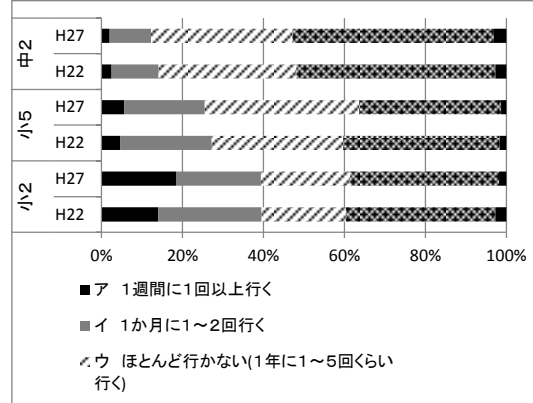


問⑥ 本を読んだり借りたりするため、市立図書館(中央図書館、ひらた図書センター、八幡分館、松山分館)に行きますか。(1つ選択) (単位: %)

児童・生徒

回答	学年 年度	小2		小5		中2	
		H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 1週間に1回以上行く		14.0	18.4	4.6	5.6	2.5	2.0
イ 1か月に1~2回行く		25.5	21.0	22.6	19.9	11.6	10.2
ウ ほとんど行かない (1年に1~5回くらい行く)		20.8	22.0	32.5	38.2	34.1	35.0
エ まったく行かない		36.9	36.8	38.7	35.0	49.2	49.7
無回答		2.7	1.8	1.6	1.3	2.7	3.1

- ・「1週間に1回以上行く」の割合は、小学校児童の方は増加している。
- ・問⑤の「学校の図書館に行きますか」と比較すると、「ほとんど行かない、まったく行かない」の割合が大きくなっている。
(学校の図書館が充実して来ている影響も考えられる。)

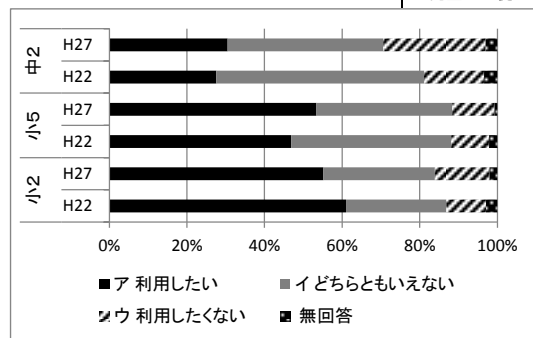


問⑦ 近くのコミュニティセンターなどで、本を借りたり読んだりすることができれば、利用したいと思いますか。(1つ選択) (単位: %)

児童・生徒

回答	小2		小5		中2	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 利用したい	61.0	55.2	46.9	53.4	27.6	30.5
イ どちらともいえない	25.9	28.7	41.2	35.0	53.5	40.1
ウ 利用したくない	10.2	14.1	9.8	10.9	15.5	26.4
無回答	2.9	2.0	2.1	0.7	3.4	3.0

- ・小学校児童では、半数以上が「利用したい」と回答。
- ・本が身近にあるという環境整備も必要と考えられる。

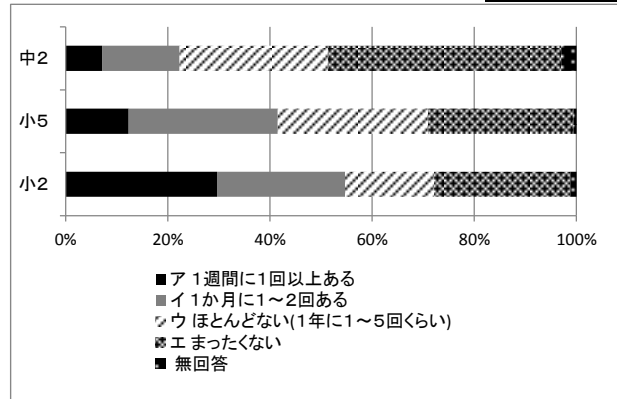


問⑧ 読み聞かせしてもらった本や自分で読んだ本の内容など本に関係のあることで、家族でお話するときはありますか。(1つ選択) 【※H27新たに設問を追加したもの】 (単位: %)

児童・生徒

回答	学年	(単位: %)		
		小2	小5	中2
ア 1週間に1回以上ある		29.6	12.3	7.1
イ 1か月に1~2回ある		25.1	29.2	15.2
ウ ほとんどない(1年に1~5回くらい)		17.4	29.4	29.0
エ まったくない		26.7	28.5	45.7
無回答		1.2	0.6	3.0

- ・小2では、約3割が「1週間に1回以上ある」と回答。
- ・年齢が上がるにつれ、回数は減少する傾向が見られる。
(年齢に対する読書量の推移と同様の傾向あり。)



(2) 保護者向けアンケートの集計結果

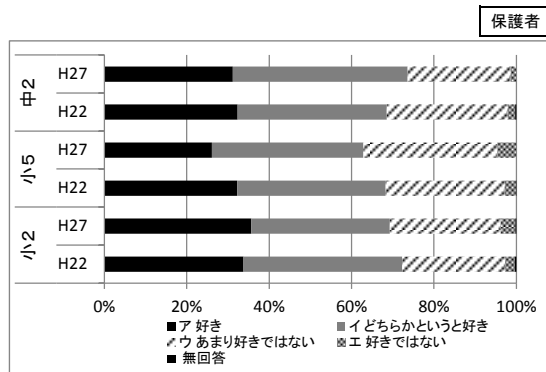
問① あなた（保護者）は本を読むのが好きですか。（1つ選択）

（単位：％）

子どもの学年 回答	小2		小5		中2	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 好き	33.8	35.7	32.2	26.1	32.3	31.2
イ どちらかというと好き	38.6	33.6	36.0	36.8	36.2	42.4
ウ あまり好きではない	25.0	26.9	28.9	32.5	29.3	25.0
エ 好きではない	2.3	3.6	2.7	4.6	1.8	1.4
無回答	0.4	0.2	0.1	0.0	0.3	0.0

※端数処理（四捨五入）の関係で合計が100%にならない場合があります。

・概ね1/3程度が「好き」、「どちらかというと好き」という回答あり。



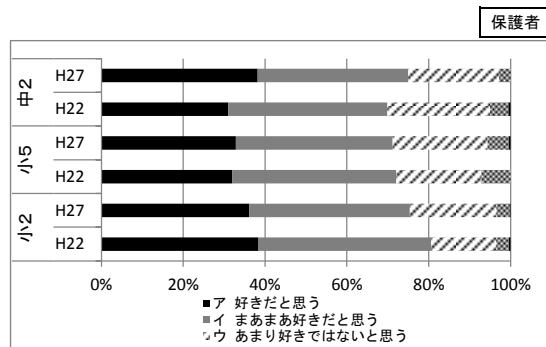
問② お子さんは本を読むのが好きだと思いますか。（1つ選択）

（単位：％）

子どもの学年 回答	小2		小5		中2	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 好きだと思う	38.4	36.1	32.0	32.9	31.0	38.2
イ まあまあ好きだと思う	42.2	39.3	40.0	38.3	38.9	36.8
ウ あまり好きではないと思う	15.9	21.2	20.8	23.2	25.1	22.2
エ 好きではないと思う	3.1	3.2	7.0	5.2	4.5	2.8
無回答	0.4	0.2	0.1	0.4	0.5	0.0

※端数処理（四捨五入）の関係で合計が100%にならない場合があります。

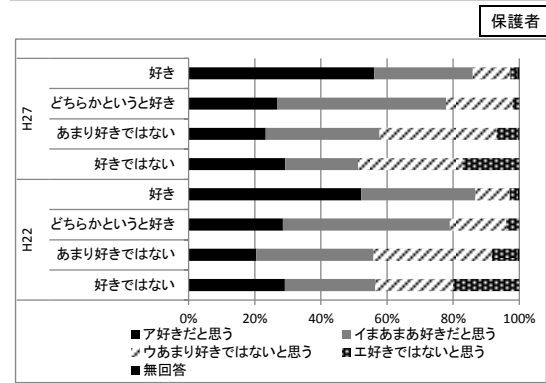
・保護者の読書好きと子どもの読書好きの傾向は、概ね同じ傾向にある。



<参考> 親の読書の好き嫌い、子どもの読書の好き嫌いの関係

（単位：％）

親の本の好き嫌いに 関する質問の回答（問①）	問②の子どもの本の好き嫌いに関する質問の回答					
	ア好きだ と思う	イまあま あ好きだ と思う	ウあまり好 きではない と思う	エ好きで はないと 思う	無回答	
H27	好き	56.2	29.7	11.4	2.1	0.6
	どちらかというと好き	26.9	51.0	20.1	2.0	0.0
	あまり好きではない	23.3	34.4	35.3	6.6	0.3
	好きではない	29.3	22.0	31.7	17.1	0.0
H22	好き	52.2	34.5	10.4	2.5	0.4
	どちらかというと好き	28.5	50.5	17.1	3.8	0.1
	あまり好きではない	20.5	35.4	35.8	7.8	0.5
	好きではない	29.1	27.3	23.6	20.0	0.0



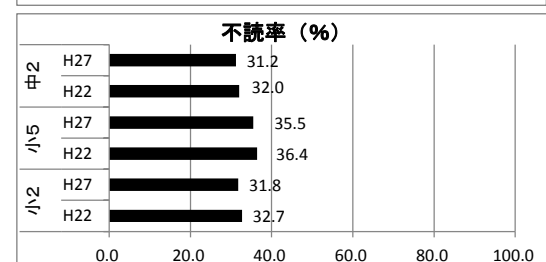
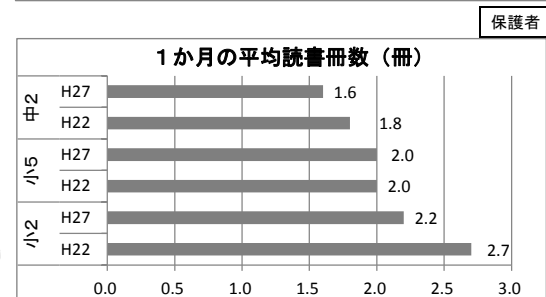
問③ あなたは1か月に何冊くらい本を読みますか。

（単位：冊、％）

子どもの学年 項目	小2		小5		中2	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
平均読書冊数	2.7	2.2	2.0	2.0	1.8	1.6
不読率	32.7	31.8	36.4	35.5	32.0	31.2

・保護者の平均読書冊数は、児童・生徒の読書冊数より少なく、前回の調査より僅かながら減少の傾向が見られる。

・不読率も3割程度ある。

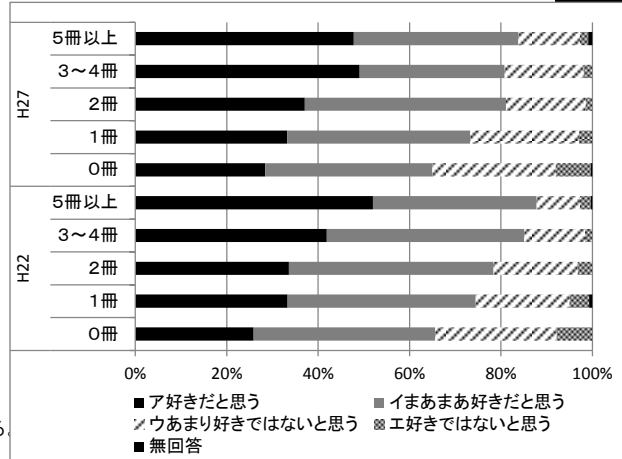


＜参考＞ 親の読書量と、子どもの読書の好き嫌いの関係

(単位：%)

親の1か月の読書量に関する質問の回答(問③)		問② 子どもの本の好き嫌いに関する質問の回答				
		ア好きだと思う	イまあまあ好きだと思う	ウあまり好きではないと思う	エ好きではないと思う	無回答
H27	5冊以上	47.8	36.0	13.5	1.8	0.9
	3～4冊	49.1	31.7	17.3	1.9	0.0
	2冊	37.1	44.0	17.5	1.4	0.0
	1冊	33.2	40.1	23.8	2.9	0.0
	0冊	28.4	36.6	27.0	7.7	0.3
H22	5冊以上	52.0	35.8	9.5	2.4	0.3
	3～4冊	41.9	43.2	13.3	1.6	0.0
	2冊	33.6	44.8	18.4	3.2	0.0
	1冊	33.3	41.2	20.5	4.3	0.7
	0冊	25.9	39.7	26.6	7.7	0.1

・保護者の読書冊数と子どもの読書好きの傾向は、概ね相関関係にある。

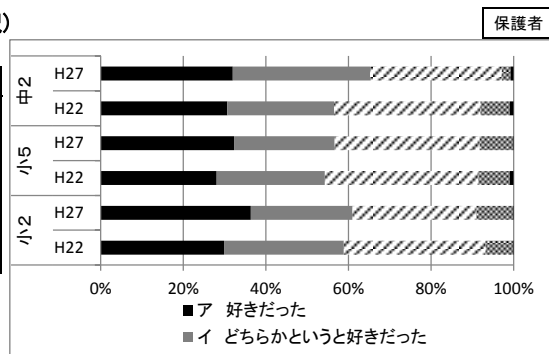


問④ あなたは子どもの頃、本を読むのが好きでしたか。(1つ選択)

(単位：%)

項目	子どもの学年 小2		小5		中2	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 好きだった	29.9	36.4	28.1	32.3	30.7	32.0
イ どちらかという好きだった	29.0	24.6	26.2	24.4	25.9	33.3
ウ あまり好きではなかった	34.4	30.0	37.2	35.1	35.5	31.9
エ 好きではなかった	6.5	8.8	7.6	8.0	7.1	2.1
無回答	0.2	0.2	0.9	0.2	0.9	0.7

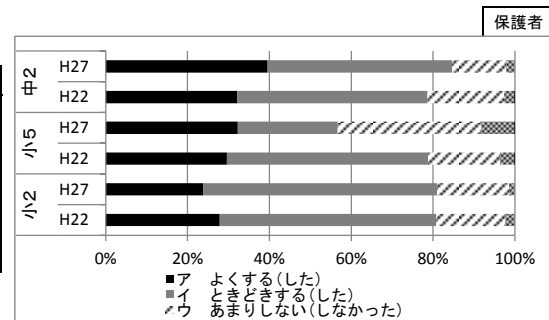
・問①と、ほぼ同じ傾向あり。



問⑤ お子さんに絵本や物語の読み聞かせをしていますか(していましたか)。(1つ選択)

(単位：%)

項目	子どもの学年 小2		小5		中2	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア よくする(した)	27.9	23.9	29.6	32.3	32.2	39.6
イ ときどきする(した)	53.0	57.1	49.1	24.4	46.5	45.1
ウ あまりしない(しなかった)	16.9	17.6	17.6	35.1	18.8	13.2
エ まったくしない(しなかった)	2.2	1.4	3.4	8.0	2.4	2.1
無回答	0.1	0.0	0.2	0.2	0.2	0.0



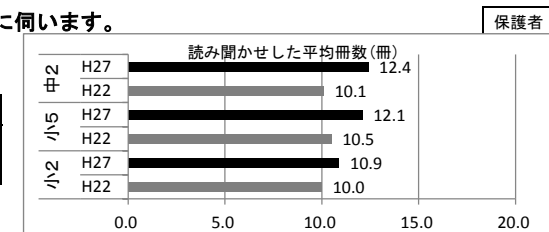
問⑤-2 「よくする(した)」、「ときどきする(した)」と答えた方に伺います。

1か月に何冊くらい読み聞かせをします(しました)か。

おおよその冊数をご記入ください。

(単位：冊)

項目	子どもの学年 小2		小5		中2	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
読み聞かせした平均冊数(冊)	10.0	10.9	10.5	12.1	10.1	12.4



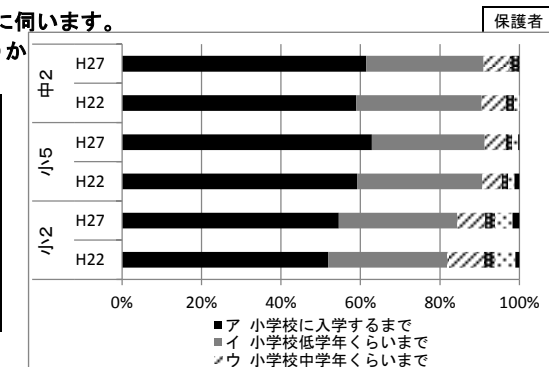
問⑤-3 「よくする(した)」、「ときどきする(した)」と答えた方に伺います。

お子さんが何歳くらいまで読み聞かせをしますか(しました)か(1つ選択)

(単位：%)

回答	小2		小5		中2	
	H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 小学校に入学するまで	51.9	54.6	59.2	62.9	58.9	61.5
イ 小学校低学年くらいまで	29.9	29.8	31.5	28.4	31.5	29.5
ウ 小学校中学年くらいまで	9.3	7.0	4.9	5.3	6.1	6.6
エ 中学校に入学するまで	2.7	2.5	1.6	1.6	2.1	2.4
オ その他	5.2	4.4	1.6	1.5	1.3	0.0
無回答	1.0	1.7	1.2	0.3	0.0	0.0

・約6割近くが小学校入学まで。小学校低学年まで含めると8割5分程度。



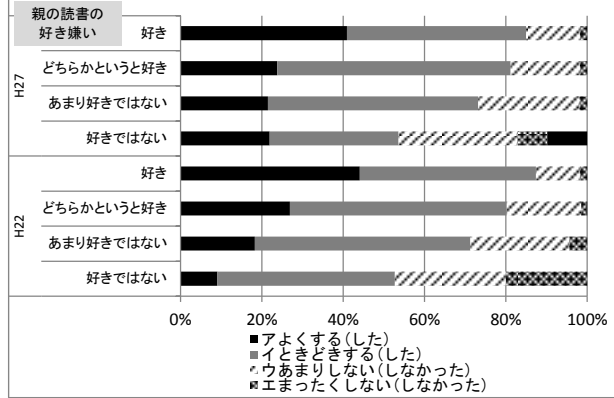
＜参考＞ 親の読書の好き嫌い、子どもへの読み聞かせの頻度の関係

保護者

(単位：%)

親の本の好き嫌いに関する質問の回答(問①)		問⑤の子どもの絵本等の読み聞かせの頻度に関する質問の回答				
		アよくする(した)	イときどきする(した)	ウあまりしない(しなかった)	エまったくしない(しなかった)	無回答
H27	好き	40.9	44.1	13.2	1.8	0.0
	どちらかというと好き	23.8	57.4	17.0	1.8	0.0
	あまり好きではない	21.5	51.7	24.9	1.9	0.0
	好きではない	21.9	31.7	29.3	7.3	9.8
H22	好き	44.1	43.3	10.8	1.7	0.1
	どちらかというと好き	26.9	53.3	18.3	1.3	0.2
	あまり好きではない	18.3	53.0	24.3	4.4	0.0
	好きではない	9.1	43.6	27.3	20.0	0.0

・親が読書好きの場合、子どもへよく読み聞かせする傾向が見られる。

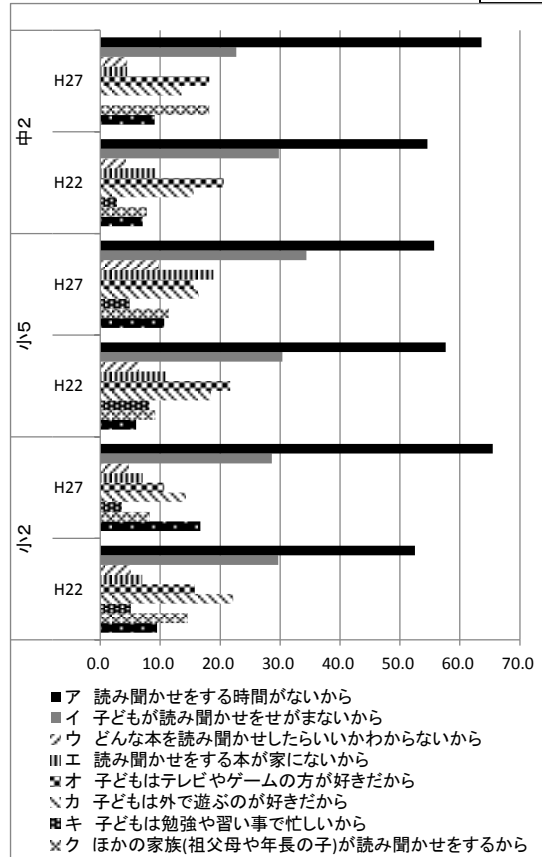


問⑤-4 「あまりしない(しなかった)」、「まったくしない(しなかった)」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(複数選択)

保護者

回答	子どもの学年		小2		小5		中2	
	年度	H22	H27	H22	H27	H22	H27	
ア 読み聞かせをする時間がないから		52.5	65.5	57.6	55.7	54.6	63.6	
イ 子どもが読み聞かせをせがまないから		29.7	28.6	30.4	34.4	29.8	22.7	
ウ どんな本を読み聞かせしたらいいかわからないから		5.1	4.8	6.5	9.8	4.3	4.5	
エ 読み聞かせをする本が家にないから		7.0	7.1	10.9	18.9	9.2	4.5	
オ 子どもはテレビやゲームの方が好きだから		15.8	10.7	21.7	15.6	20.6	18.2	
カ 子どもは外で遊ぶのが好きだから		22.2	14.3	18.5	16.4	15.6	13.6	
キ 子どもは勉強や習い事で忙しいから		5.1	3.6	8.2	4.9	2.8	0.0	
ク ほかの家族(祖父母や年長の子)が読み聞かせをするから		14.6	8.3	9.2	11.5	7.8	18.2	
ケ その他		9.5	16.7	6.0	10.7	7.1	9.1	

・「読み聞かせをする時間がないから」が最も多く、「子どもが読み聞かせをせがまないから」が多い。
「読み聞かせをする時間がないから」が増加傾向にある。



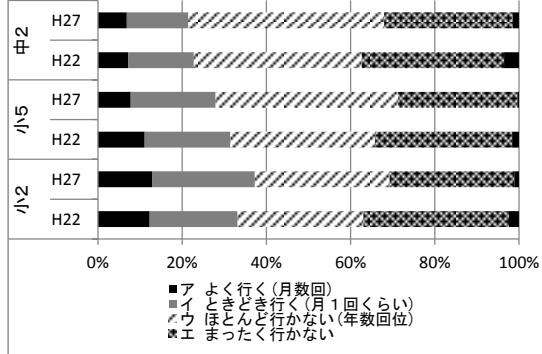
問⑥ 市立図書館(中央図書館、ひらた図書センター、八幡分館、松山分館)にお子さんを連れて行きますか。(1つ選択)

保護者

(単位：%)

回答	子どもの学年		小2		小5		中2	
	年度	H22	H27	H22	H27	H22	H27	
ア よく行く(月数回)		12.3	12.9	11.1	7.8	7.2	6.9	
イ ときどき行く(月1回くらい)		20.9	24.4	20.4	20.2	15.6	14.6	
ウ ほとんど行かない(年数回位)		29.9	32.0	34.3	43.3	39.8	46.5	
エ まったく行かない		34.5	29.6	32.6	28.3	33.8	30.6	
無回答		2.4	1.1	1.6	0.4	3.5	1.4	

・小学生の場合は、「よく行く」と「ときどき行く」の計が約3割程度あるが、中学生になると20%台前半となる。
・小2を除いて、「ほとんど行かない」と「まったく行かない」の計の割合が前回より増加傾向が見られる。

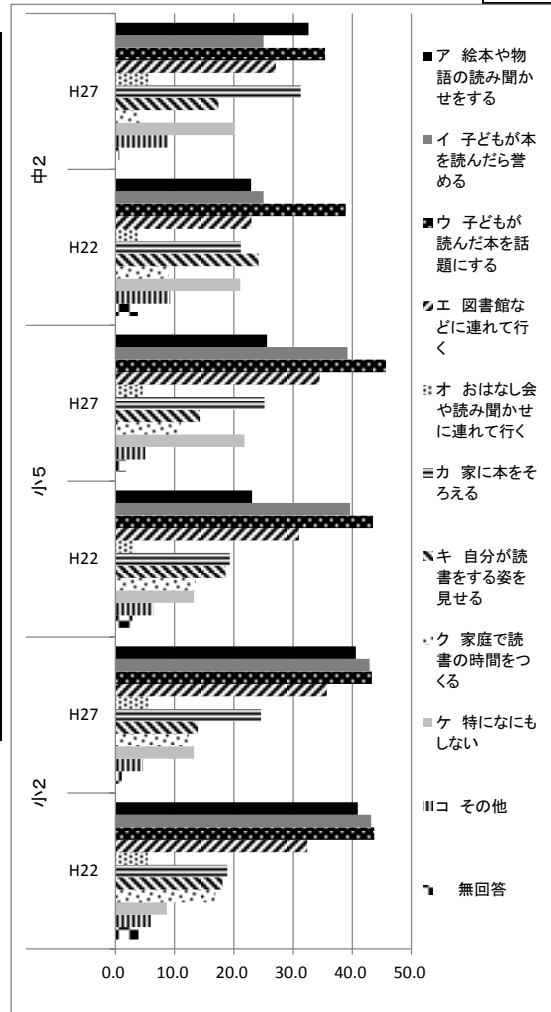


問⑦ 子どもの成長にとって読書が大切だといわれています。ご家庭で
どのようなことに気を配っていますか。(複数選択)単位：%

保護者

回答	子どもの学年		小2		小5		中2	
	年度		H22	H27	H22	H27	H22	H27
ア 絵本や物語の読み聞かせをする			40.9	40.6	23.1	25.6	22.9	32.6
イ 子どもが本を読んだら誉める			43.2	42.9	39.6	39.2	25.0	25.0
ウ 子どもが読んだ本を話題にする			43.7	43.3	43.5	45.7	38.9	35.4
エ 図書館などに連れて行く			32.4	35.7	31.0	34.5	23.0	27.1
オ おはなし会や読み聞かせに連れて行く			5.5	5.6	3.2	4.7	3.8	5.6
カ 家に本をそろえる			18.9	24.6	19.3	25.2	21.2	31.3
キ 自分が読書をする姿を見せる			18.1	14.0	18.6	14.3	24.2	17.4
ク 家庭で読書の時間をつくる			16.9	12.4	13.6	11.1	9.0	4.2
ケ 特になにもしない			8.7	13.3	13.3	21.8	21.1	20.1
コ その他			6.0	4.7	6.4	5.1	9.3	9.0
無回答			3.9	1.1	2.9	1.8	3.8	0.7

- ・家庭で気を配っている内容については、前回とほぼ同じ傾向が見られる。
- ・「ウ 子どもが読んだ本を話題にする」が児童・生徒の保護者の回答で割合がいちばん多い。
- ・小学生低学年までの場合は「ア 読み聞かせをする」が約4割。
- ・小学生の場合、「イ 本を読んだら誉める」「エ 図書館などに連れて行く」が多い。

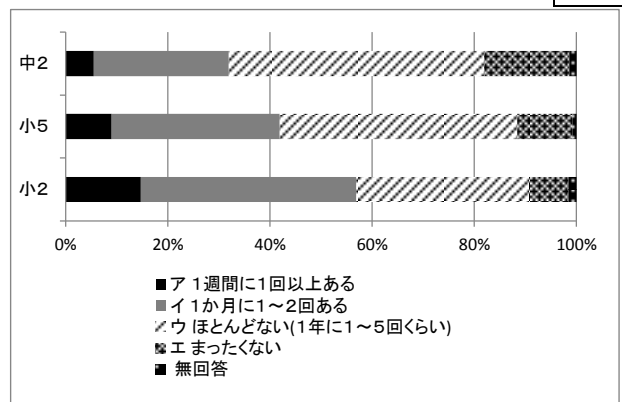


問⑧ 読み聞かせしてもらった本や自分で読んだ本の内容など本に関係のあることで、
家族でお話するときがありますか。(1つ選択)【※H27新たに設問を追加したもの】

保護者

回答	子どもの学年	(単位：%)		
		小2	小5	中2
ア 1週間に1回以上ある		14.7	9.0	5.5
イ 1か月に1～2回ある		42.2	32.9	26.4
ウ ほとんどない(1年に1～5回くらい)		33.8	46.5	50.0
エ まったくない		7.7	10.8	16.7
無回答		1.6	0.8	1.4

- ・傾向は児童・生徒のアンケート結果と概ね同じ傾向にある。
- ・但し、児童・生徒の問⑧の結果と比較すると、アとイについては、概ね同じ傾向にあるが、「エ まったくない」の割合は、児童・生徒のアンケート結果より大幅に低い値となっており、その分、「ウ ほとんどない」の割合が増えている。



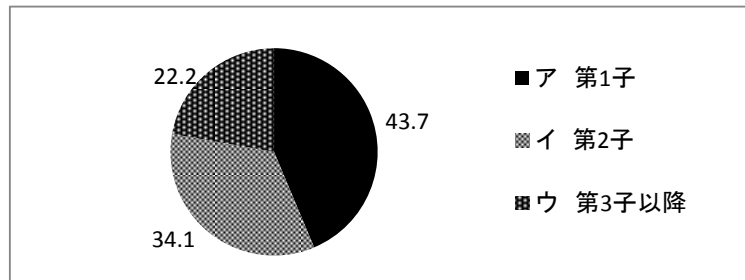
(3) ブックスタート事業に関するアンケート

アンケート実施日… 9か月健診（H27.4月～6月まで6回） 計147人

※ 3か月検診の際にブックスタートを行った後の、9か月検診の際にアンケートを実施しているもの。

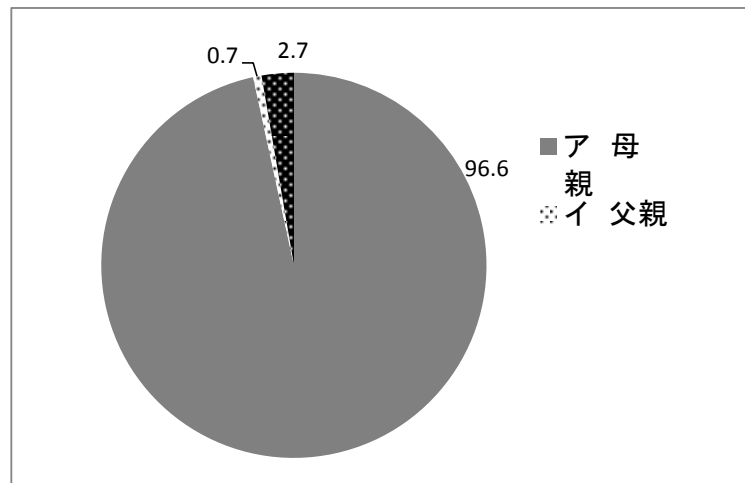
1. お子さんは □

	人	%
ア 第1子	64	43.7
イ 第2子	53	34.1
ウ 第3子以降	30	22.2
合計	147	100.0



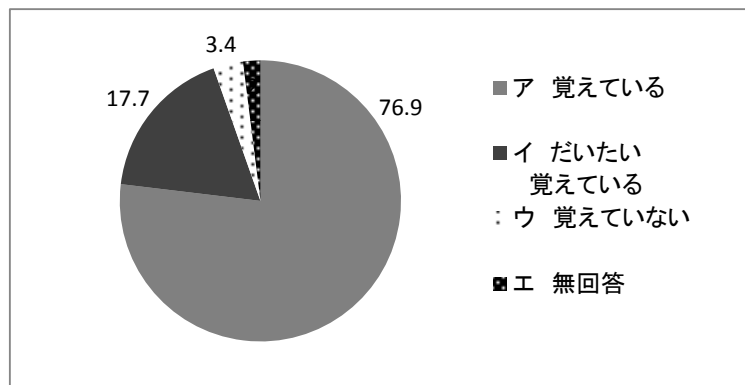
2. あなたはお子さんの・・・

	人	%
ア 母親	142	96.6
イ 父親	1	0.7
ウ 祖母	4	2.7
エ 祖父	0	0.0
オ 親戚	0	0.0
カ その他	0	0.0
キ 無回答	0	0.0
合計	147	100.0



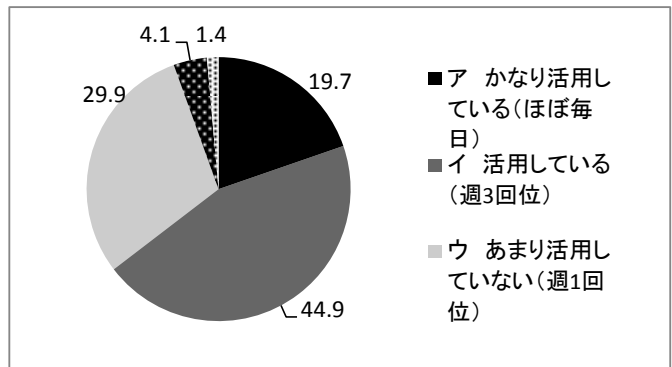
3. 酒田市では3か月健診の際に、赤ちゃんのまわりで絵本を介した楽しくあたたかいひと時が持たれることを願い「ブックスタート」を実施しました。（絵本とブックスタートパックをお渡ししました）この事業の趣旨を覚えていますか？（1つ選択）

	人	%
ア 覚えている	113	76.9
イ だいたい覚えている	26	17.7
ウ 覚えていない	5	3.4
エ 無回答	3	2.0
合計	147	100.0



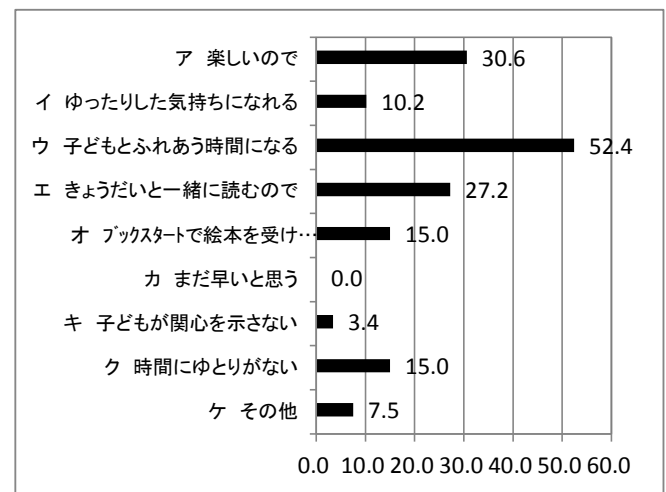
4. ブックスタートで受け取った絵本を活用していますか？（1つ選択）

	人	%
ア かなり活用している（ほぼ毎日）	29	19.7
イ 活用している（週3回位）	66	44.9
ウ あまり活用していない（週1回位）	44	29.9
エ 活用していない	6	4.1
オ 無回答	2	1.4
合計	147	100.0



5. 「4」でお答えになった理由は何ですか？（複数選択）

	人	%
ア 楽しいので	45	30.6
イ ゆったりした気持ちになれる	15	10.2
ウ 子どもとふれあう時間になる	77	52.4
エ きょうだいと一緒に読むので	40	27.2
オ ブックスタートで絵本を受け取ったので	22	15.0
カ まだ早いと思う	0	0.0
キ 子どもが関心を示さない	5	3.4
ク 時間にゆとりがない	22	15.0
ケ その他	11	7.5
実回答者数	147	



「ケ その他」の理由

○活用している方の理由

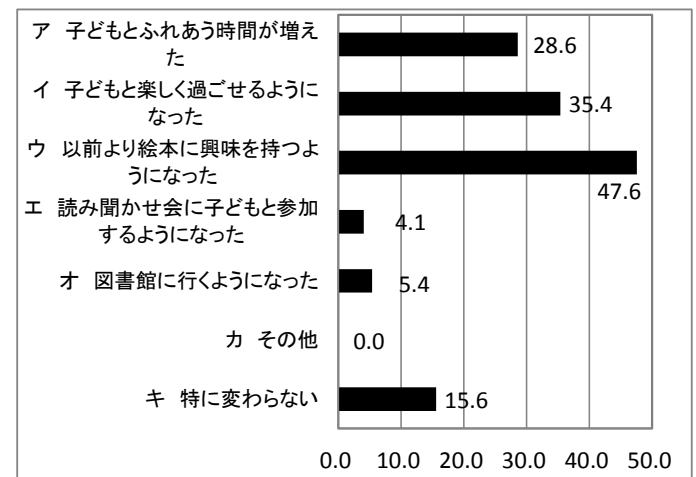
- ・子どもが気に入っている。子どもが「よんで」とくる。
- ・自分も絵本が好きな為。
- ・子どもが喜ぶため。

○あまり活用していない理由

- ・もらって2か月位は毎日読んでいたが、今はおもちゃが増えて絵本の時間が減ってしまった。
- ・お下がりの絵本がたくさんあるので回しながら

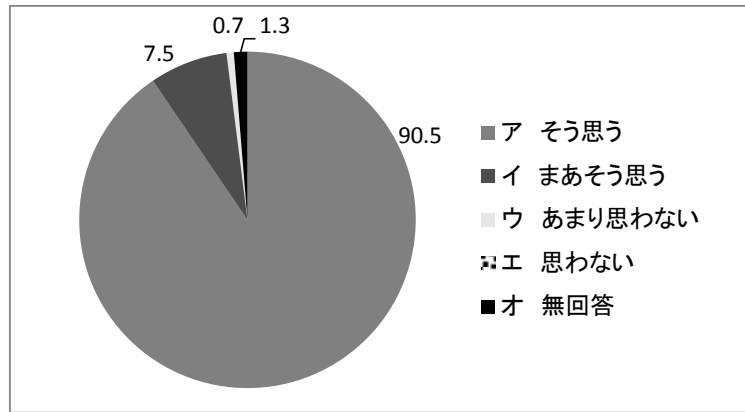
6. ブックスタートをきっかけに変わったことはありますか？（複数選択）

	人	%
ア 子どもとふれあう時間が増えた	42	28.6
イ 子どもと楽しく過ごせるようになった	52	35.4
ウ 以前より絵本に興味を持つようになった	70	47.6
エ 読み聞かせ会に子どもと参加するようになった	6	4.1
オ 図書館に行くようになった	8	5.4
カ その他	0	0.0
キ 特に変わらない	23	15.6
実回答者数	147	



7. 今後もブックスタート事業を継続してほしいと思いますか？(1つ選択)口

	人	%
ア そう思う	133	90.5
イ まあそう思う	11	7.5
ウ あまり思わない	1	0.7
エ 思わない	0	0.0
オ 無回答	2	1.3
合計	147	100.0



8. ブックスタートについてご意見・ご感想がございましたら自由にご記入ください。

(ブックスタートで受け取った絵本をどのように活用されているかや、事業に対するご感想などを抜粋)

- ・ぐずった時見せると泣きやみます。本が好きです。
- ・受け取った絵本を上の子も活用できる。親子の触れ合いの時間になる。親も子も絵本に興味を持つようになった。
- ・楽しく読んでいます。絵本を好きになるきっかけになったと思います。
- ・いただいた絵本を自分で開いて「よんで」という顔をします。すごく絵本が好きみたいです。
- ・絵本を読むきっかけになり、とてもよかったです。今でも好きで読んであげると喜びます。
- ・上の子どもも絵本が大好きで毎日読んでいます。本人のためにもなるので本を身近に置いて、これからもたくさん読んであげたいです。
- ・おじいちゃんもおばあちゃんも本を活用させていただいています。本を選ぶ参考になりました。
- ・本を読む時間は、子どもも自分もいい時間を使っていると思う。(祖母)
- ・忙しくてなかなか読み聞かせできず…これからは、時間をとって読んであげたい。
- ・保育園に行っていて、なかなか読んであげられなかったので、読んであげたいと思います。
- ・もう少しゆとりができれば、活用したいと思いますので、継続してください。
- ・毎日の読み聞かせで覚えたフレーズを喜ぶので、あやすのにも役立っています。